

わが子のあゆみ

ぎ ふ し りつうずらしょう がっ こう
岐阜市立鵜小学校



▼ 鵜小伝統のしめ縄づくりで5年生が挑戦 ▼

本校は、「人から学ぶ、地域から学ぶ『自分みがき』」と題し、外部講師を招いた授業や、地域の特長を学ぶ校外学習を教育課程に数多く位置付けています。12月16日は青少年育成市民会議のみなさんを講師に、PTA役員や保護者の方の協力のもと、5年生がしめ縄づくりに取り組みました。わらをなつて縄にする難しさに手こずりながらも地域の方の温かさや伝統を大切にす熱意に支えられ、新年を彩るしめ飾りを作り上げました。

2022.3
No.470
春風号
第73巻5号

3



「おおがきしりつあやさしょうがっこう」

大垣市立綾里小学校

● 住所 〒503-0984
大垣市綾野5丁目85番地
● TEL 0584-91-1018
● 児童数 137名



〈地域の自然や風土〉

大垣市は岐阜県の南西部に位置しています。揖斐川、杭瀬川、水門川をはじめとする多くの一級河川があり、豊富で良質な地下水に恵まれていることから「水の都」の異名もあります。綾里小学校の周りには田園が広がっており、四季折々、移り変わる田んぼの風景を間近で見ながら、学校生活を送っています。



校舎



米づくり 裸足になって手植えました



米づくり
稲穂の重さに
収穫の喜びを感じました



児童会を中心にした
あいさつ運動



米づくり
地域の方とともに
脱穀体験をしました



保護者による朝のあいさつ運動



学校の教育目標

めあてをもつて 力いっぱい やりぬく子
・ べんきょうにとりくむ子
・ やさしい心をみがく子
・ じょうぶな体をつくる子

学校のたからもの① 綾里について地域の方から学ぶ

総合的な学習の時間や生活科において、地域について学ぶ内容があります。生き物などの自然だけでなく、地域の活動として三年生では地域のまつりについて、五年生では地域の方と一緒に米づくりについて学びます。特に五年生の米づくりでは、一年を通して、苦労や努力を理解し、また昔と今の米づくりの違いを自らの体験を通して手間や時間など多くの労力がかかっていることを学んでいます。

例年では四月の苗作りからスタートしますが、今年はコロナ禍ということもあり、六月の田植えからのスタートとなりました。十月の稲刈りでは鎌を使って、一株一株丁寧に刈り取り、藁で結び、足踏み脱穀機を使い、地域の方のご指導のもと収穫することが出来ました。

年々、お米の消費が減少しているなか、地域の方は子どもたちにお米のありがたさを育てて刈り取るまでの労力を学んで欲しいという思いで、水の調整や草むしりといった田んぼの管理を協力していただいています。このお米は全校児童に配られ、「自分たちが作ったお米だよ」という笑顔と思い出と一緒に食卓に並びます。

機械を使わず、一からの手作業で、手間や時間、多くの労力がかかっていることや、お米のありがたさや大切さを学べるのは、市内でも限られた小学校にしか残っていません。このような貴重な体験を「地域の方から学ぶ」ことは綾里小の宝物です。

学校のたからもの② 綾っ子のあいさつ習慣

本校では「あやさ」との学校名にちなんで、
① あいさつ
② 約束
③ サービス
④ 友だち
という綾っ子の伝統となる生活をつくるための四本の柱があります。

その中でも「あいさつ」は、「元気にあいさつ・笑顔であいさつ」を目標に、子どもたちは学年を問わず声を掛け合い、学校内だけでなく、地域の方にも進んで声掛けを行っています。児童会の計画委員が企画し、児童玄関であいさつ運動を行っています。よい姿だった子を校内放送で広めるなど、子どもたちの目指す目標のひとつとなっています。

年に数回、保護者の方にもご協力していた

だき「あいさつ運動」を登校時に実施しています。この期間は、綾っ子たちがいつも以上に元気な声、明るい笑顔で、頑張っている微笑ましい姿を見ることが出来ます。先日、地域の方から「綾里小の卒業生からあいさつをしていただき、私も元気をもらいました」と、心温まるお手紙をいただきました。

綾っ子たちが身に付けたあいさつをする習慣は、綾里小の伝統であり、宝物です。

学校のたからもの③ タブレット端末を活用した 学習や生活

大垣市教育委員会からICT活用による教育活動推進校の指定を受け、大垣市の中で最初にタブレット端末が導入されました。端末を単に使えるだけでなく、端末を利用して学習や生活をよりよくしていける子どもたちを目指しています。

例えば、生活では、教室や廊下ロッカーの整理整頓、トイレのスリッパの様子などを撮影し、教室の大型モニタに映し出して、良いところや課題を子どもたちが見つけて、より高まるうとしています。

また、授業では、これまでノートに書いていた自分の考えを、端末上に記入しネットワークを利用して、先生に提出したり学級全員に見せたりします。仲間の考えを参考にしながら、より良い考えを導き出しています。体育ではマット運動などの様子を動画で撮影しあい、客観的に自分の動きを確認して、技能の向上につなげています。毎週末には端末の家庭への持ち帰りがあり、こんな学習をしたよと親子で話します。



算数の授業の様子
タブレットに考えをペンで記入しています



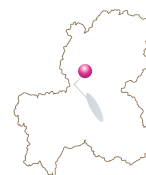
体育の授業の様子
タブレットで前時に撮影した自分の姿から課題をつかみます



●住所 〒501-5121
 ●TEL 郡上市白鳥町白鳥10-2
 ●児童数 0575-8213144
 196名

〔地域 の 自然や風土〕

本校は郡上市の北部に位置し、学校のすぐ横を清流長良川が流れます。春には堤防沿いに美しい桜が咲き乱れ、夏には多くの釣り人が鮎釣りを楽しまします。秋には町を囲む山々が色鮮やかに紅葉し、冬は多くのスキー客でにぎわいます。また伝統的な盆踊り「白鳥おどり」が有名で、地元の保存会の方を中心に大切に受け継がれています。北陸や飛騨にも繋がる拠点として栄え、豊かな自然と地域の伝統文化を大切に守りながら発展してきた地域です。



郡上市立白鳥小学校

[illegible]

「白鳥おどり保存会」の方から学ぶ

宝暦義民祝いもちつき太鼓「さあ、もう一丁いこうか」

はじめに

本校では、子どもたちが、進んで学校の教育目標の具現に向けて取り組み、その結果として、自分や友だち、学校や地域が好きになつて、それぞれを大切にすることができるようになつてほしい、そう願つて教育活動を進めています。そこで、本校の「たからものとして、自分や友だちを大切にする活動」と「学校や地域を大切にする活動」を紹介します。

① **学校の「たからもの」**

自分や友だちを大切にする活動

(1) なかよしジャンプ大会(児童会活動)

自分や友だちを大切に活動

(1) なかよしジャンプ大会(児童会活動)

本校の児童会には「学びづくり」「仲間づくり」「自分づくり」という三つの委員会があります。その中の「仲間づくり委員会」が中心となり、コロナ禍が収まった十一月に「なかよしジャンプ大会」というなかよし班(異年齢集団)による長縄跳び大会を開催しました。

大会ですから、跳んだ回数によって勝敗が決まります。しかし、白鳥小学校のなかよしジャンプ大会は、この勝敗が目的ではありません。下学年の子たちは、「心から楽しい」と思って参加する、上学年の子たちは、「下学年の子たちが楽しい」と思って参加できるように

(2)にここにカードのプレゼント

全校の友だちへの「感謝」や「うれしい気持ち」をカードに書いて渡し合う、「ここにカード」の活動を行っています。学校の教育目標に照らして、明るい挨拶を交わし合ったときや、優しい思いやりに触れたとき、そして、がんばってやりぬいたときなどに、クラスやなかよし班の友だちに対して、自分の素直な気持ちや伝えます。この活動を通して、クラスや学校の友だちを大切にしようとする気持ちや育んでいます。

学校のたからもの②

学校や地域を大切に活動

(1)郡上学(ふるさと学習)を通じた
伝統文化の継承

総合的な学習の時間やクラブ活動において、ふるさとの歴史や文化を学ぶ郡上学（ふるさと学習）を行っています。講師は、地域に住むその道のプロの皆さんです。



学校の教育目標

生き生きと行動する子

- よく考えてつくり出す子
- みんなを思いやり助け合う子
- ねばり強くやりぬく子



なかよしジャンプ大会
「大丈夫、今だよ!」

「はしましつあぢかじょうがっこう」

羽島市立足近小学校

住所 〒501-6207
羽島市足近町7丁目66番地1
TEL 058-3391-3348
児童数 218名



〈地域の自然や風土〉

羽島市は、木曽川と長良川に挟まれた田園地帯に位置しています。また、名神高速道路岐阜羽島インターチェンジや東海道新幹線岐阜羽島駅のある交通の要所ともなっています。足近小学校は、羽島市北部の田んぼと民家が並ぶ地域に位置し、一八七三年（明治六年）に開校した歴史ある小学校です。



校舎



花いっぱい活動で育てた花



花いっぱい活動



学校の教育目標

なかよく かしく たくましく
～気付き、考え、行動できる子～

学校のたからもの① 地域とふれあい、地域と学ぶ

足近小学校学校運営協議会では、『足近っていいな』地域とふれあい、地域と学び、地域に愛着と誇りをもてる子の育成を目標とし、学校運営協議会委員（自治会会長、コミュニティセンター協議会会長・館長・指導員、民生児童委員会会長、主任児童委員、老人クラブ連合会会長、青少年育成会会

長、足近保育園園長、PTA会長の方々のご協力を得て、児童の安全・安心、児童の教育活動の充実を支援するために四つの事業を実施しています。

今回は、その中で「花いっぱい活動」「教育支援活動」について、一部ご紹介します。

（１）花いっぱい活動

毎年、三年生が老人クラブの方と花を育てています。夏休み前に花の植え方・育て方をご指導いただきながら、一緒に苗を植えた後も、夏休みの土日の水やりのご支援も受けています。

そうして美しく咲いた花を、花いっぱい、温かい心いっぱいの足近小学校になることを願い、担当者が各場所を飾っています。

毎朝、花の世話をしている三年生の児童の笑顔と挨拶が、学校全体に温かい心を広げてくれています。

（２）教育支援活動

① 一年生「いちご狩り」

毎年春に足近保育園の園長先生からいちご狩りのご招待を受け、保育園の農園にていちご狩りを体験させていただきました。自分で収穫する大きくていい香りのいちごは、児童にとって格別なようです。

② 二年生「足近コミュニティセンター見学」

生活科の学習「もつとなかよしまちたんけん」では、コミュニティセンターの見学をしました。「働いている人の名前を知りたい」「青パトの中を見てみたい」との願いをもって見学しました。そこで、施設の方から、足近町の方が安全安心に生活できるように青パトで回っていることや地域の人たちが参加できる行事を行って仲間づくりをしていることを教えていただきました。

③ 五年生「田植え・稲狩り体験」

毎年、足近町の青少年育成会の方や地元JAの方のご協力を得て、田植え・稲狩りの体験をしています。今年度も六月に、稲の苗の植え方を教えていただきながら植えました。順調に育ち、十月中旬に稲狩りをしました。収穫したお米は、その方々がお赤飯にしてくださり、ご馳走になりました。

学校のたからもの②

ほかほか活動

全校がほかほかな心でいっぱいになることを願い、計画委員会を中心に「ほかほか活動」を実施しています。友達から自分がうれしいことをしてもらった時に感謝の気持ちをほかほかレターとして書いています。そのほかから全校に広めたい行為を、毎日、給食時間の放送で計画委員が紹介しています。



いちご狩り



コミュニティセンター見学



田植え



稲刈り

「かにしりつそなんちゅうがっこう」

可児市立蘇南中学校

住所 〒509-0207
可児市今渡1112
TEL 0574-62-1010
児童数 966名



はじめに

可児市の学校教育は「笑顔の学校」を目指す姿として推進しています。コロナ禍での生活が続く中で、蘇南中学校では毎日たくさんの笑顔が見られました。その「笑顔の“もと”」は何かと考えてみると、次の合言葉が出てきます。『助け合い励まし合う 知恵を動かす たくましくやりぬく』これは、各教室に掲げられている学校の教育目標です。



学校の教育目標

自己を生かす生徒

助け合い励まし合う
知恵を動かす
たくましくやりぬく

学校のたからもの① 助け合い励まし合う

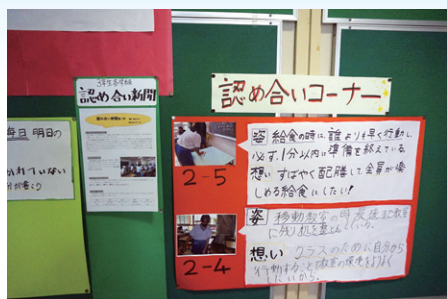
生徒会活動において、『共に創る』をテーマとして、互いに関わることで、つながること、文化を築くことを大切にしてきました。積極的に行ってきた活動は認め合い活動です。学級内だけでなく、他学級（他学年）に向けて、生徒一人ひとりのよさを広げる機会を作ってきました。活動の中で認め合いを意欲的に行う生徒が増え、学校全体が温かい雰囲気になりました。一昨年度より、教師が生徒のよさを認める Good Report を継続してきましたが、今ではこのように生徒同士の認め合いが活発になり、認めた側、認められた側ともに笑顔で溢れています。

～助け合い励まし合う～

僕の「笑顔の“もと”」は、誰かと活動に取り組むとか、全校で大喜利大会やる（公約より）みたいに、一人ではなくて『共に創る』ことです。そこに仲間との認め合いも生まれます。こんな自分の「笑顔の“もと”」を全校に広めて、蘇南中に皆でやることの楽しさを残したいです。（生徒会長）



校舎



生徒会認め合い活動



リモートによる全校集会

学校のたからもの② 知恵を動かす

知恵を動かす

すべての生徒の可能性を引き出せるように、ICT環境を活用して一人ひとりに応じた学習を行ったり、小集団を生かして他者の多様な考えにふれる協働的な学びを行ったりしました。例えば社会の学習では、タブレットで配付されたワークシートにキーワードを用いて学習のまとめを行い、全体の画面で全員のまとめを比較します。これにより、これまで数人しか聞けなかった考えが全員分一度に共有できるようになりました。また、小集団学習は蘇南中の柱です。外国籍の生徒が二十％を占める中でも、分け隔てなく共に学ぶ姿を大切にしています。令和の日本型学校教育を実現しようとしています。「できた」「わかった」が笑顔につながることは間違いありません。

学校のたからもの③ たくましくやりぬく

総合学習の出口を「自分の成長を語る会」と設定し、一年間取り組んできました。四月に一年間を通してなりたい自分（めざす自分）を設定します。そして、めざす自分の実現に向けて、異学年交流を定期的に行い、先輩からアドバイスをもらうことで、自分の変容を確かめてきました。一・二年生が先輩からもらうアドバイスは心に響き、何をすればいいのか明らかになります。自ら壁を乗り越え成長した自分を実感することこそ笑顔につながっています。

～たくましくやりぬく～

私の「笑顔の“もと”」は当たり前前の生活です。朝起きて学校へ行き、友達と話したり、授業をしたりすることは誰しもが当たり前に行っていることではありません。縦割り交流での先輩からのアドバイスも当たり前にもらえることと思わず、「当たり前」のことをやりきる自分をめざします。（二年）



タブレットを用いた学習のまとめ



異学年縦割り交流

1月号を読んで

「早寝早起き朝ごはん」とありましたが、うちの子は夜8時30分までには寝て、朝6時30分までには1人で起きます。おかげで入学してからの2年間を病気で休みすることなく毎日元気に過ごしています。毎日快便でもあるそうで、やっぱり「早寝早起き朝ごはん」は大切なんだなと実感しました。(Mさん)

特集の「早寝早起き朝ごはん」がとても詳しく紹介されていて良かったです。なんとなく良いことは分かっていましたが、メカニズムなど細かく知ることができて勉強になりました。クイズ形式で子どもと一緒に学ぶことができました。(Tさん)

子の思い、親の願い、教育の窓では、みなさんが日常思っていることが書かれています。その中で、六年生の女の子が書いた「私の母」の内容を読み、子どもはしっかり親の様子を見ているなと思いました。毎日休みなく働いているお母さん、仕事で忙しいのに家でも子どもの習い事の送迎をしてくれる。なかなか感謝の言葉は出ないけど、心ではすごくお母さんに感謝している。最後にゆっくりできる時間をプレゼントしたいと書いてありました。素敵なお母さんだなと感じました。(Sさん)

「チョコタフィー」が簡単そうだったので作ってみたいです。(Tさん)

稲垣さんの学生時代のバレーボールを通じた経験の文を読んで、同じく小2からバレーを始めた息子も1年たった今振り返るだけでも、コーチや他の親さんから大きな影響を受けて成長していると実感しています。毎土、日「楽しい、行く!」と続けている内はまだ成長しそうです。笑っている姿を見るのはとても幸せです。(Kさん)

知っている学校、近隣校、お友達の学校など、写真や紹介などを見るのが楽しみで、子どもの通う学校との規模や活動内容を比べたり、「これ、いいな!」と思ったり、楽しく拝見しています。前に知人がクイズに参加していて私も応募しました。皆さんの原稿、すごく育児に仕事に頑張っているなぁと感じするばかりです。次回、知っている方が登場するので楽しみです。(Iさん)

「早寝早起き朝ごはん」を続けてきて良かったと思いました。でも、1つ間違っていたことがありました。土、日くらいはゆっくりしたいと思い、朝8時に起きていたことです。平日、休日で2時間以上起きる時間が遅いと、体内時計のリズムがくずれます。翌週には、時差ぼけのような状態になり、授業に集中できないと書いてあり、反省しました。学校がある日もない日も、決まった時刻に起きて、バランスの良い朝食、早めに寝ることが大切だと改めて気づかされ、実行しています。(Iさん)

「早寝早起き朝ごはん」の記事が印象に残りました。親の私も身につまされることが多く反省しています。まずは親が率先して姿を見せることが大切ですね。改めて家族全員で話してみます。(Iさん)

「特集 早寝早起き朝ごはん」がとても参考になりました。こんな生活習慣実践してみようと思うものばかりでした。紹介されていたメニューも、わが家の小食な子どもたちでもおいしく食べられる栄養満点なメニューでした。(Aさん)

保健室ノート「メディアとの付き合い方」を読んでわが家にはゲーム機は無いものの、学校からのタブレット端末の配布により、メディア漬けの日々が始まりました。何か違うことに没頭させたいと思い、親子で相談しました。以前、趣味だったレジンクラフトに再挑戦することに決めました。樹脂を意味する「レジン液」がとても高価なのですが、アクセサリとして出来上がった時の喜びはひとしおです。家族、友人に好みの色を聞いたり、オーダーを取って楽しんでいます。「レジンアクセサリを作ると、ipadに触らんでもいいで良かったネ」「学校の友達からオーダーが入ったよ!」等と相手のことを考えながら嬉しそうに、楽しそうに作っている姿を見ると、こちらも嬉しくなります。まだまだスティホームが続くそうなので、楽しみながら出来る家での趣味を続けて、ノーマディアタイムを増やしていきたいと思います。(Hさん)

もくじ わが子のあゆみ 2022.3 No.470 春風号

表紙 岐阜市立鶯小学校

- 1 学校のたからもの
大垣市立綾里小学校／郡上市立白鳥小学校
羽島市立足近小学校／可児市立蘇南中学校

- 11 特集 「いじめ・社会の認識に対する疑問
～子どもたちの叫び・大人の声から～」
前岐阜市教育長 早川 三根夫

- 17 みんなで家庭教育!
岐阜県環境生活部環境生活政策課

- 18 先生!ありがとう!
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ

- 19 「多様性尊重の教育②」
みんな、いっしょに 安田 和夫

- 21 保健室ノート 小林 有紀

- 23 私の先生④ 小川 千咲

- 25 わが家の宝物 丹羽 伸次

- 26 リレーエッセイ⑩ 瀬瀬 栄司

- 27 子育て半生記 長田 正樹

- 29 楽しい読み聞かせ⑩ 瑞浪市立陶小学校PTA

- 31 親の背中⑩ 堀 愛・牧野 浩之

- 33 私が出会った1冊の本【続53】
古川 正浩・勝川 悟

- 35 子の思い 千藤 愛莉・星谷 将義・中村 優那

- 親の願い 藤塚 茂之・奥 朋也

- 教育の窓 古田 靖志・大野 隆次

- 40 話そう!語ろう!わが家の約束 所 美奈・神戸 将成

- 41 親子ではてな

- 42 お試しクッキング

- 岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

- 43 ふるさとの伝承 関市立武芸川中学校

- 45 きらり!キッズ! 北方町立北方西小学校

- 47 夢中!熱中!我が部活 美濃加茂市立東中学校

- 49 私たちのPTA 中津川市立加子母小中学校PTA

岐阜県PTA連合会が推奨する小学生・中学生向けの保険

PTA24保険



2. 令和4年10月1日から
岐阜県では自転車に乗る方は
保険の加入が義務化されます。
PTA24保険はこれに
対応しています。

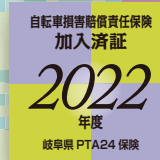
1. 令和4年度から
PTA24保険の団体割引が
43.75%と
大きくなります。

PTA24保険の特長

3. ご加入者全員に
「賠償責任保険加入済」
自転車添付用
反射ステッカーを
差し上げます。

4. 学校から貸与されている
タブレットをお子様が
壊してしまった場合の
修理代も保険で
お支払いします。

5. 新型コロナウイルスに備えて、
入院保険金額を
令和4年度から
大きくします。



申込み締切日 4月4日
保険の始期日 4月6日

お申込みパンフレットは3月初旬頃
学校にて配布いたします。

ホームページからもパンフレットの確認、申込書の印刷ができます。



岐阜県 PTA 連合会

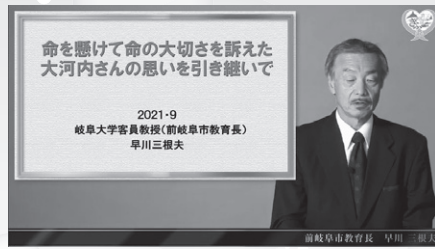
引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

『いじめ・社会の認識に対する疑問』

子どもたちの叫び・大人の声から（抜粋）

前岐阜市教育長

早川 三根夫 氏

命を懸けて命の大切さを訴えた
大河内さんの思いを引き継いで2021-9
岐阜大学客員教授（前岐阜市教育長）
早川三根夫

大河内さんの思いを十分に伝えることはできないかも知れませんが、それと、今回、岐阜市の中学校で起きたいじめのご遺族の思いを合わせて、当事者として、精一杯みなさまにお伝えしたいと思います。

重松 清さんと大河内さんが平成十八年に教育テレビでご対談なさった時の最後の質問です。

「天国で清輝君に会ったら、何を言いたいですか？」

「そうですね、本当に『ごめんね。』って言うしかないでしょうかね。『でもお父さん、清輝の代わりに、こういうこと色々やってきて、全国の子どもたちの悩みを色々聞いてきて、色



言えないかも知れないけれど、その子たち、元気でやっているよ』そういう報告ができれば良いなと思っていますね。』とおっしゃっていました。きっと天国で、そうされているんだと思います。

死亡記事から（朝日・中日）

大河内さんが、亡くなった翌日の記事には、『いじめをなくしたい』という思いと息子の無念

学校からのお願い

てください。もし、周りの人がそういうふうであったなら、うちの子は守られていたと思います。」

もし、加害者としていじめに関わっているという連絡が学校からあったら、謝罪する覚悟で学校へ来てください。その時に、親の責任の取り方をわが子にきちんと示すのが親の責任です。さらに、その時に、他の子に対する言葉かけをしてください。自分の子どもをさとするのは当然として、一緒にいじめた仲間にも、「うちの子がもし、またそういうことをやったら、ちゃんと止めてくれよ。」と。もし、自分の子が被害者ならば、加害者の子どもたちにも、「頼むからそういうことはやらないでくれ。うちの子に悪い事があったら言ってくれれば良いけど、頼むからいじめはやらないでくれ。」と言ってください。自分の子どもだけではなく、他の子に対して言葉かけることが、非常に効果が高いということが分かっていきます。普段から他の子に言葉かけをするということが、お互いの子どもへの育ちに大きく関わっていることが分かっていきますので、是非やっていただきたいと思います。

いじめを許さない社会に

「いじめは大ごとになります。担任一人で解決するんじゃないで、学校全体の問題として取り組みます。一人ひとりを先生たちは応援しますよ。仲間の足を引っ張る子には、先生たちはみんなで指導しますよ。一番相談しやす

い人に相談してください。相談されたら、その日のうちに問題解決にみんなで立ち上がりましますよ。」という約束をどの学校でもしているんです。

そして、学校に対しても「いじめ問題は、授業を自習にしても最優先で取り組んでください。いじめの情報が入ったら、すぐに複数の教員でそれぞれの子どもから事情を聞いて、その内容を突合して、そしてその日の夜には、親も呼んでみんなで問題解決に立ち会ってください。」ということをお願いしていたわけです。ところが、ご遺族のお話にこういうことがあります。

「その日にどういう気持ちでいたのかなと思っていきます。いつも通りに家を出て行きました。どれだけの思いだったんだろうか。想像して考えています。学校からは一度も連絡がない。友達からも保護者からも情報はありませんでした。息子は充実した学校生活を送っているものと思っておりました。一度も休みたいたと言ったこともない、その日もいつも通り出て行きました。ところが、みんなはいじめられていたことを知っていたんです。たくさんさんの情報を持っていました。でも誰も話してくれませんでした。もし、情報を寄せていてくれたら、学校はもう少し動いてくれたのではないかと。百人近い子が見聞きしているのに、私たち家族だけが知らなかったなんて残酷です。せめて当日の朝までに情報が入っていたら、止めることができました。息子は必死に隠そうと思っていたのでしようが、母が知ったら仕方がないなと言ってくれたはずなんです。前日の土下座のことも、みんな知っていたのに、誰も先生に言ってくれなかった。こんな酷いことが起

を晴らしたいという思いで、一日一日を過ごした。息子もその思いを分かってくれると思う。清輝が亡くなって以降、夫はいじめ自殺を一件でも減らすのは、自らの使命と言いつつも、最後の最後まで活動を続けた。最後は安らかだった。」と出ておりました。

まさに、この七月も岐阜市の子どもたちの前に立ち、お話をさせていただいております。大河内さんの計報に接し、ついにこの日が来てしまったのかと心が湖底に沈んでいく思いがしました。

大河内さんは、大きな足がかりを残されました。いじめ問題を考え続けることが生き方を考え続けることであり、より良い世の中に少しづつでも近づいていくことだと、命を懸けて命の大切さを訴えられた大河内さんの意志を引き継いでいかなければならないと思っております。

PTAの皆さんに訴えたいこと

『いじめられている子の立場になって考えよう』と子どもには言うが、親が手本にならないきやいけない。親自身が他人を思いやる優しい親になって欲しい。優しいと思っている自分の子が、知らない間にいじめに関わっているということに自覚して欲しい。自分の子が被害者、加害者でなくても、観衆や傍観者のどれかにいるんです。子どもが『あの子いじめられている』と言ったら、『かわいそうね』で終わらせない、必ず学校に連絡してください。自分の子どもだけ見ていれば良いのではなく、どの子もかけがえのない子、自分の子にも影響を与えるんです。心配してあげられる親になっ

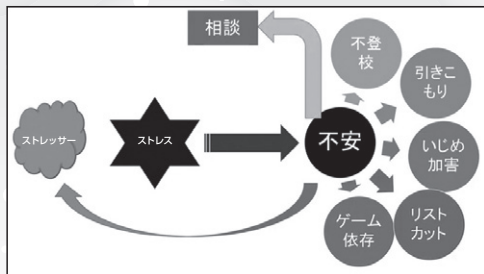
きているのに問題にならないことが不思議で、息子自身もやるせなかったに違いありません。先生の対応も、SOSを出してくれた二人の生徒に対してちゃんと対応してくれたら、こんなことにはなっていないかもしれません。何故助けられなかったんだろう、何でだろうと悔しくて、ずっとそうした気持ちでいます。私たち家族のように悲しい思いをする人が二度と出ないよう、いじめのことを深く考え、いじめを許さない社会になるよう、早川さんから多くの人に知ってもらえるよう働きかけて欲しい。」と託されています。

何度も繰り返される悲しい出来事

大津市の当時の越市長は、「大津の事件と酷似している。どうして参考にできなかったのか、どうして同じ過ちを繰り返すのか。」と新聞紙上で話されています。「今も様々ないじめ事件が報道されている。学校から連絡がなかった。共有されなかった。同じ事が繰り返されている。通学路で重大事故があれば、全国一斉点検が行われるのに、いじめが起きても全国一斉点検が行われないのは何故なんでしょうか。」とご遺族も指摘されております。

初期対応の誤りと組織的対応の欠如

ある生徒が、「あの子心配だ」といって先生にルーズリーフを出してくれました。担任の先生は、それに気がつき、「完璧にいじめです。即指導します。任せてください。」と返事を書いてくれました。被害生徒、加害生徒にも事情聴取をその日のうちにしました。彼らは「ふ



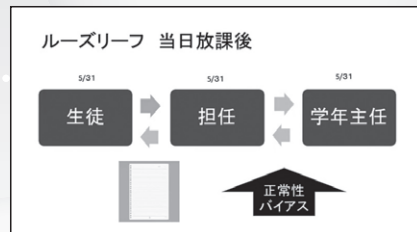
不安だから攻撃する。我々も、いじめというのは、一人をいじめの対象にすることによって、他の子の団結する力学が働くんだという事は思っておりましたが、でも、この案件をしつかり見ていくと、次のような子どもの在りようが浮かび上がってくるんです。学校は、一人ひとりを大切にしようと思っ

て、子どもにはストレスがかかっているんだと思います。そして、それが不安になる。その不安は本来、ストレッサーに対してレジスタンスすればその方が正常とは言わなけれど、正しい問題解決の方法になってくるんですよ。しかし、そうはならなくて、不登校になったり、引きこもりになったり、いじめ

不安だから攻撃する

我々も、いじめというのは、一人をいじめの対象にすることによって、他の子の団結する力学が働くんだという事は思っておりましたが、でも、この案件をしつかり見ていくと、次のような子どもの在りようが浮かび上がってくるんです。学校は、一人ひとりを大切にしようと思っ

て、子どもにはストレスがかかっているんだと思います。そして、それが不安になる。その不安は本来、ストレッサーに対してレジスタンスすればその方が正常とは言わなけれど、正しい問題解決の方法になってくるんですよ。しかし、そうはならなくて、不登校になったり、引きこもりになったり、いじめ



主任は、「事情を聞いてあげてね。」で終わってしまいました。その日の放課後、担任は、一日かかってその問題を解決したと思ったわけですね。そして学年主任に、今日、こういうことがあったと報告しました。学年主任は、「よく今後も経過を見ておくように。」と指示をしました。けれど、話はそれで終わりました。もうこれで解決した。正常性バイアスが働いたんです。

もう一回チャンスがあったんです。もう一人の生徒がアンケートに書いてくれました。担任は、そのアンケートを学年主任に出し、そして学年主任は六月二十七日に行われた「いじめを考える校長を中心にした会議」にそれを報告しました。これが最後のチャンスでした。校長が気がついたんです。「この話は、事情をしつかり聞くように。」と、学年主任に指示をしました。六月二十七日に指示をして、七月二日に教育訪問があって、三日にいじめ自殺があった。その間、本人に確認することはな

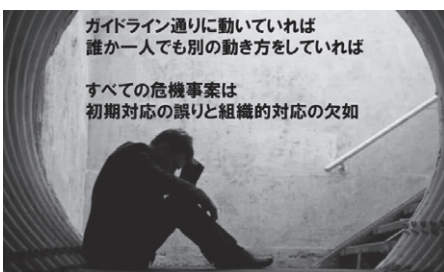
ざけだ。大丈夫です。」と答えました。でも、この担任が聞く間に、彼らの中では、その内容について情報交換がされていた。

担任の先生は、そのお子さんから受け取ったルーズリーフを、その日の朝、隣の席にいる副主任に見せました。本来ならば、学校中の問題にしなければいけない所を、その副

されませんでした。

そのアンケートに書いてくれたことを、担任がパソコンで打ち直して報告書として出したのは、「〇〇君がよくいじめられている。本人は嫌なのか知らないが心配である。」というものでした。しかし、その子が書いた文章はそうではなかった。「〇〇君がよくいじめられている。本人は嫌なのか知らないが、本当に止めろと言っている時でもいじめを続けているので心配である。」と書いてあったんです。

担任が会議に報告したのは、「本人は嫌なのかどうか知らないが、あいまいだけど心配だ。」ということでしょう。訴えてくれたのは、「本当に止めろと言っている時でもいじめを続けているので心配である。」と書いてあるんです。全然深刻度が違ったんですよね。これでも、この正確な情報を通じることがなかった。誰か一人がガイドライン通りに動いていれば、誰か一人でも別の動き方をしていれば、すべての危機管理事案は初期対応の誤りと組織的対応の欠如です。



じめ加害になったり、リストカットしたり、ゲーム依存になったりすると。だから、不安があるにも関わらず、別の形で逃避するということがあって、今の子どもたちは、そうした不安をストレッサーに向けるのではなくて、自分の心の中で別の方法で改修していこうとしているんじゃないかという姿が見えてきたんです。

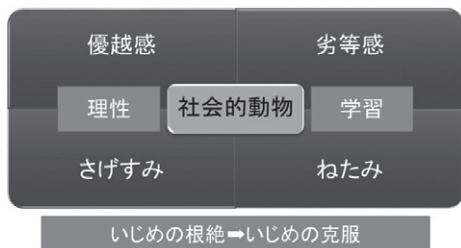
悲しみと後悔

「多くの悲しみや後悔があります。何の手も打たないまま、死なせたことが悔しい。諦めがつかない。みんながいじめられていたことを知っていたのに、私たちだけが知らなかったことが悔しい。知っていれば、休ませるか、母が学校へ行くとか、打つ手はあったのに。土下座させられた日、家に帰ってもいつも通りに見えました。どういう気持ちだったのか、心が痛みます。弱音を吐かない子に育ててしまったことを後悔している。周りの生徒の思いが私たちの耳になかなか入ってきません。冷たいなと思う。わが子のことをどう思っているのか、その気持ちを聞かせて欲しい。仏前の息子に報告をしたい。何故、一人も止めてくれなかったんですか。何故、第三者委員会の聞き取り調査に協力しないのですか、話す義務があると思います。優しい〇〇君がいたという事実をみんなの心に残して欲しい。」

学校に対する思いと対策

「授業を教えるだけの学校か。親身になってくれる先生が何人いるんですか。生徒に向き合える先生ではなくて、自分の業務をやるだけの

自分の心の内に打ち立てる



人間は社会的動物なので、人との繋がりの中で生きています。その中で、優越感や劣等感を感じることは、それは自然のことだと私も思います。で、その感情のすぐ隣に、さげすんだり、妬んだりする感情が生まれやすいのも事実です。そこを途切れさせるのが、理性であり学習であろうと。ですから、いじめというのを根絶するのではなくて、次々繋がりがやすいそうした感情は間違っているんだということを、自分の心の内に打ち立てるようにしていかなければいけないんだと思います。

ルーズリーフを出してくれた生徒は、「話題を避けている家庭がある。『またいじめ？まだいじめ？いまさらいじめ？』と考えて、先に進もうとする。私たちは生きていく上で永遠に考え続けなければならぬことなのに、いじめはなくなればならないかもしれない、だから考え続けるんです。いじめは取り組んでなくすものです。」と、答えはみんなこの子が教えてくれました。

先生なんですか。学級通信には良いことたくさん書いてあるけれど、起こった問題については書かれていない。褒めてばかりいて、問題のあることに本当に注意できているんですか。電話一本もない。生活ノートにも『大丈夫？』の一言も書かれていなかった。県教委の訪問に翻弄されている本末転倒でしょう。」

本当におっしゃる通り、私たちの重い教訓です。そして、これらのお言葉や第三者委員会の結果を基に、我々は、昨年の二月に、いじめに対する取り組みのパッケージを作りました。その大きな一つとして、「いじめ防止対策推進条例」の制定がありました。これは、勿論その前にもあったんですが、このことを反省して、もう一度作り直していこうという市長からの提言もあり、作り直しました。これを作るに当たって、多くの生徒と私もディスカッションしてきました。彼らは言ってくれました。

「大人にもいじめありますよね、大人も対象にしてください。市民に広く知ってもらうために、内容を分かりやすくしてください。いじめを相談する勇氣は僕にはありません、怖さを身を持って知っているからです。今までもいじめの話し合いはしてきたけれど、それでもいじめは起きています。大人の前では良い子です。先生や防犯カメラを増やして欲しい。もっと僕らの話を聞いて欲しい。アンケートを頻繁に採ってください。月一回は先生が一人ずつ呼んで話を聞いてください。誰でもいいから相談できる体制を取ってください。」子どもたちの悲痛な叫びです。

大人が思っている以上に 僕らの世界は複雑

「話すことあるのに、先生が忙しそうだから話せない。」

先生を増やさなきゃいけないという問題はあるんです。けれど仕事の優先順位を変えるだけで救われる子どもがいるんだったら、優先順位を変えてください。

「ちょっと相談がある」と言うのは無理です。いじめの相談をするには、様々な心配があり、すごく勇気がいるんです。心配なのは、先生に相談したことが周りにばれないかどうかです。安心して相談できるようにしてください。」

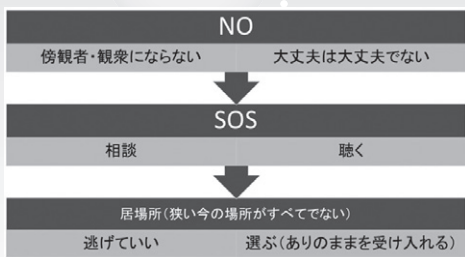
私は、このことについて、子どもたちと多くの話し合いをして、子どもたちがたくさん訴えを出してくれました。一つずつ見て、一つずつ朱書きをして、反省や謝罪やこれからこうするよということを書いていきました。およそ三千人の子どもの書いてくれました。これは、大事な子どもたちの訴えです。これをどう生かしていくかということをお私たちは考えていかなければいけません。

信頼できる先生に

先生たちは何もしてくれないから、先生たちが変わったというふうに見えなければいけません。信頼していい先生に助けを求めることはできません。そして困った生徒を必ず助けると強い意志をもっていないかなければいけません。声をかけるということは大切にしてい

いじめ問題に想定外はない

「いじめには必ず兆候がある。それを軽視したり見過ごしたり、様子を見ると先送りするから、問題が大きくなるわけです。初期対応の誤りです。避けない、あえて話題にする。話題にすることが意識することです。そして相談される先生になるためには、こまめな声かけが必要です。先生が思っているほど、先生のシグナルは子どもには届いていないんです。子どもが『ノー』と言ってSOSが出るよう、そうした子どもたちになるように、先生たち、子どもたちのそばにいて、一番影響力を発揮できる場所にいるあなた方がいる場所は素敵な場所ですから、それで頑張ってもらいたいです。」



大河内さんが、保護者や教員に 語られたこと

「全国から千通以上の手紙を貰いました。相談したくてもできない、聞いて貰いたくてもできない。そんな子どもたちが本当にたくさんいるんだということを知りました。ただ

るということなんです。異変に気付くはずです。「大丈夫？」と聞いて、「大丈夫！」と答えて、安心するのはそれは違うんです。次の日に「やっぱり気になってるんだけど」ともう一度問い返す、そうした先生になってください。「大丈夫！」は大丈夫ではないんです。

児童生徒の役割

「いじめを見た、相談を受けた時は、観衆や傍観者になるのではなくて、先生や家族などに相談するよう努めましょう。いじめをなくするために、何をすべきかなどについて自ら考え、積極的に取り組むよう努めましょう。」

いじめの四層構造



これが、いじめの構造です。教育界では知らない先生はいないはずですが、ぜひ、みなさんもこうしたいじめの構造について、理解していただければと思います。

いじめは被害者と加害者の間だけで行われているわけではありません。周りには、はやし立てる観衆がいて、そしてその外には、関わりを持ちたくないと思う傍観者が必ずいるんです。この子たちは、いじめが起

話を聞いてもらえるだけで、ただ心を受け止めてもらえるだけで救われる。最後まで子どもの話を聞いてくれる大人が少くない。受け止めてくれる大人が少くない。私もある一人だと思っています。『いじめはなくなるならなかったけれど、いつも声をかけ、話を聞いてくれた先生には感謝しています。』という手紙もありました。自分の思いを伝えることを子どもたちは一番望んでいるのではないか、そうした気持ちで、PTAのみなさん方も接してくださいをお願いいたします。」

大河内さんが、子どもたちに 語られたこと

「『大丈夫？』と尋ねても『大丈夫！』としか言わない。清輝が遺書の中には、書くことがいっぱいあったのに、何故話してくれなかったのだろう。何年たっても分からない部分があり、そんな自責の念をずっと持ち続けています。」

『いじめは大人が見ていない所で起きるから、気付くのが難しい。』

と言いますが、そうなんです。そうなんです。うが、そういう認識がないから気付けないだけではないでしょうか。見

第6条 いじめの早期発見に係る基本行動

人目に付きにくい時間や場所

遊び等を装って

大人が気付にくい形で

全ての市民は、児童生徒の変化に積極的に関心を持ち、いじめを認知しなければならない

きっていることを知っているんです。加害者も観衆も傍観者も、すべていじめを深刻化させる要素になっているということです。自分がこのどこに立っているのかを理解しなければいけません。いじめは、観衆や傍観者の研究によれば、いじめの八十五パーセントに傍観者がいると言われています。そのうち、加害者側に立つ観衆は七十四パーセント、そのうち被害者側に立つ傍観者が二十三パーセントと言われていますが、そんなに加害者側に立つのかということをお私には思いますが、しかし、観衆や傍観者の八十三パーセントがいじめの状況を不愉快だと感じているそうなんです。そうしたくないにも関わらず、いじめの加害に加わってしまう観衆が三十一パーセントいる。自分も次の被害者になるのが嫌だから、加害者側に加わるという証言をしている子どもたちもいるわけです。しかし、傍観者が、いじめを止めようとした場合、五十七パーセントで、数秒以内でいじめが止まったということもあります。

いじめを見逃さない口

学校では、いじめを見逃さない日というのを毎月三日に設けています。そこで、それぞれの先生や地域の人たちが、いじめに対する思いを語っていただけたらということが子どものいじめに対する思いを作っていく大事な取り組みになっているはずであるということをお私には思っています。ぜひ、色んな学校で取り組まれると良いと思います。

けにくい物だという認識があつて、いじめを見ていけば、認識が持てるはずではないでしょうか。目に見える姿、耳に聞こえる言葉だけでなく、その子の心に寄り添ってあげて欲しいんです。その子の思いを考えてあげて欲しいんです。みんなで話し合つて、お互いの気持ちを考えて合えることを大切にしてください。これが、叔父さんからのお願いです。」で、締めくくっていらつしゃいます。

大河内さんが一番伝えたかったこと

「多くの子どもたちが不安に思い追い詰められています。本当は、大丈夫ではないんです。誰かに相談したいと思っているんです。学校を休めないんです。お父さん、お母さんにも上手く話ができないんです。誰かに気がついて欲しい。子どもの話を、私やあなたが聞いていただければ、そういう一人にならなければいけないんだと思います。」

大河内さんはいらつしゃらなくなりましたけれど、そのお気持ちをみんなで引き継いで、目の前にいる子どもたち、自分のお子さん、通学路で会う子ども、そうした子どもたちの些細な変化に声をかけ、気がついたら学校に連絡していただき、みんながそういう気持ちを持つていたら、大河内さんの何百分の一、何千分の一の活動はできるのではないかと思います。

謹んでご冥福をお祈りしたいと思います。ありがとうございました。

家庭で子どもに教えたいことや、育みたい力など、
家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育！

知っていますか？「家庭教育を実践する日」

く家庭に帰る日」を合わせて「家庭教育を実践する日」とし、家庭教育についての関心と理解を深め、積極的に家庭教育を实践するきっかけとしています。

「家庭の日」の始まり

「家庭の日」運動は、昭和三十年（一九五五年）に、鹿児島県の鶴田町（現さつま町）という小さな町で誕生しました。

当時、鶴田町では各集落の公民館長による研修が行われていましたが、他町村の視察研修を行う中で、家同士のつながりは強い反面、家庭における家族の絆が薄れつつあるのではないか、という問題が提起されました。

また、当時の鶴田町は農業を主な産業としており、ゆっくり休むことができない農業従事者が多かったため、「農休日」を設けてはどうかという提案がなされました。

こうした「家庭を大切に！家族の絆を強めたい」「休みを設けて家族と触れ合いたい」という願いが、「家庭の日」の誕生につながったのです。

広がる「家庭の日」の輪

小さな町から始まった「家

庭の日」の輪は全国に広がり、岐阜県でも昭和四十二年（一九六七年）に「岐阜県家庭の日」を定める条例」が公布されました。

その第一条には

「この条例は、明るく豊かな家庭づくりをすすめるため、家庭の日を定め、青少年の健全な育成を図ることを目的とする。」と記されています。

また、第二条には

「毎月第三日曜日を家庭の日と定める。」

「家庭の日」には、家族みんなが話し合い、楽しめ合い、協力し合うように努めるものとする。」と書かれています。



を推進しているのです。

「早く家庭に帰る日」とは
それでは、「早く家庭に帰る日」とは何でしょう。
仕事と家庭（子育て）の両方の難しさや少子化といった課題を受け、岐阜県では平成十九年（二〇〇七年）に「安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくり条例」を公布し、子どもと触れ合う時間をもつために毎月八日と十八日と二十八日を「早く家庭に帰る日」としました。

この日には、働き方を見直し、仕事から早く帰って家族そろって夕食を食べたりするなど、子どもとふれあう時間を持てるように、職場によっては「八のつく日は残業ゼロ」とうたい、勤務時間が終わったらすぐに帰宅を促すところもあるようです。

このように、ワーク・ライフ・バランスを大切にしながら、家族で豊かな時間を過ごすことが、今、求められています。

何をしよう？

「家庭教育を実践する日」

冒頭で述べたように、岐阜県では「家庭の日」と「早く

家庭に帰る日」を合わせて「家庭教育を实践する日」としています。

忙しい日々の中で「今日は家庭教育を实践する日」と意識することで、お子さんと向き合い、一緒に過ごしたりゆっくり話を聞いたりする時間をもつことができます。そうした時間は、お子さんだけでなく、普段忙しく頑張っておられるお父さん、お母さん、ご家族の皆さんにとっても、ほっとするひと時になるのではないのでしょうか。

また、時には、「家庭教育を实践する日」に親子で料理をしたり、家族みんなで災害時について話し合ったり、と、普段できないことに取り組まれてもいいでしょう。岐阜県のホームページ（左記）にも「家庭教育を实践する日」の取組のヒントがたくさん掲載されていますので、ぜひ参考にさせていただきます。

家庭教育プログラム 小・中学校編



中濃県事務所 家庭教育推進専門職
末松桂子

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

例えば約二年前、新型コロナウイルスのパンデミックによって我々の生活は大きく変わる事となりました。それは、子どもたちの学校生活においても大きな変化をもたらすことでした。

そのような状況の中、子どもたちが健やかに成長し、笑顔で学校へ登校できるのも、先生方の不変的な愛情があったからだと思います。

保護者には、「子どもたちには安全な学校生活を送らせたい」「学校内での子どもの成長を見たい」等、様々な願いがあったと思います。私たちの要望を、校長先生先導のもと、教職員一丸となって対応をしてくださいました。

変わらず学校生活を送ることができるのは、先生お一人ひとりの尽力の賜物だと我々保護者も忘れてはいけません。今この時も子どもたちの未来を創るため、行動して下さっている先生方へ精一杯の感謝を伝えたいと思います。

「先生！ありがとう！」

そして、これからも子どもたちをどうぞよろしくお願い致します。

（匿名）

information

作品を募集しています。

イラスト・などなど・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。などなど・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4～5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■7月号のお知らせ（予告）

特集＝続・親子でサイエンス／表紙＝東山中／学校のたからもの＝三輪北小・八幡小・共栄小・中央中／わが家の宝物＝高富中／リレーエッセイ／みんなで家庭教育／みんな、いっしょに／保健室ノート＝西江小／私の先生＝那留小／子育て半生記＝本荘小／楽しい読み聞かせ＝川辺東小／親の背中＝中野方小・金山中／1冊の本＝各務小・興文中／わが家の約束＝落合小・穂積北中／子の思い＝白山小・福栄小・小金田中／親の願い＝小熊小・広陵中／教育の窓＝根本小・清見中／先生！ありがとう！＝合渡小／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝合原小／きりん！キッズ！＝泉西小／夢中！熱中！我がが部活＝桜丘中／私たちのPTA＝則武小

【多様性尊重の教育②】シリーズ みんな、いっしょに

文化芸術が私たちの生活を彩っていく

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

岐阜ろう劇団いぶきの公演

令和三年十二月四日・五日、岐阜市内にある「みんなの森ぎふメディアコスモス」にて、岐阜ろう劇団いぶきの公演VOL.三十一「注文の多い料理店」が上演されました。二年ぶりの公演となりました。待ちに待った公演だったので、三回の公演とも、人数制限の中、熱心に観劇いただきました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大の波が穏やかになっていた時期とはいえ、岐阜市の指導助言を受け、安心安全な公演を目指しました。俳優、スタッフ、ボランティアについては、事前に抗原検査を実施し陰性であることを確かめた上で参加するとともに、来場者には、体温計測と住所及び連絡先の届け出、座席の記録にご協力いただきました。

さて、この岐阜ろう劇団いぶきは、昭和五十七年、全国的にもまだ珍しい「ろう劇団（きこえない人たちが主体となり手話で演じる劇団）」として結成されました。きこえる人ときこえない人が共

に力を合わせて作り上げ、今回のような自主公演をはじめ、岐阜県内の学校や県内外の聴覚障害者大会などでの上演や、ユーチューブで手話トークや手話コントの公開を続けてきました。過去には、イタリアで開かれた世界ろう者会議に参加し、公演をしたこともあります。

こうした長年にわたる活動の支えになっているのは、文化として「ろう演劇」の魅力を感じてほしいという想いです。現在、劇団員は八名（ろう者五名、聴者三名）ですが、公演にあたっては、演出、舞台制作、字幕挿入、効果音楽等、様々なスタッフ及びボランティアも気持ちを一つにして、当日を迎えました。

また、今回は、新たな試みとして、クラウドファンディングにより、多くの方からご支援いただく仕組みも取り入れました。応募者多数のため、申し込んでいた助成金が次々と打ち切られたこともあり、広く支援の輪を広げる必要があったからです。ご寄付の申し出に添えられたメッセージには、

「ろう文化の火を消さないでください。」「いぶきのファンです。応援しています。」と温かなことばが並び、劇団員やスタッフの励みとなりました。

私は、この岐阜ろう劇団いぶきの後援会長として、公演をサポートし、当日は、後援会員や学生ボランティアと共に、受付や会場整理のスタッフの一員として動きまわりましたが、二日間、来場者の方々の観劇後の笑顔に癒やされ続けました。感謝の気持ちでいっぱいです。

もう一つ、岐阜ろう劇団いぶきがチャレンジしていることがあります。それは、多くの人に、ろう文化である演劇を楽しんでいただくために、進行に手話通訳を、劇中の台詞には字幕を、そして、舞台袖には、パーカッションを中心とした生演奏による音楽効果をと、手話を知らない方をはじめ、どの方にも楽しんでいただける劇を目指していることです。

来年は、いよいよ、岐阜ろう劇団いぶき結成四十周年を迎えます。これからも様々なチャレンジを続けて、多くの方に楽しんでい

「オンラインワンだ」と思える作品を展示し、即売するという企画を重ねておられます。

私は、常々、障がいや疾患は、その方の一部ではあっても全部ではなく、その人の表現ひとつひとつに「障がいのある方の作品」とすることに違和感があります。そんな中、森さんは、展示即売されている一品一品すべてが「生活を彩るアートである」と、温かなまなざしで語っておられます。

これからの共生社会では、社会参加と自立に社会的障壁があり、多くの困難さを有する方々に対して、今を生きる一人の人間としての尊厳が感じられるような取り組みがより一層広がっていく必要があると思います。

森さんのようにネットワークを構築し、多くの方に彼ら彼女らの作品のよさを知っていただく企画をしていただけの方、あるいは、作品をブラッシュアップする知恵や技能を提供していただけの方、岐阜が誇る伝統工芸の技能士として彼ら彼女らと共に歩いてくださる方など、彼ら彼女たちの主体性

ただけるような演劇活動を続けていきたいと、劇団員及びスタッフは気持ちを新たにしています。多様性を求め続けるこの演劇活動を、皆さんと共に応援できればと心から願っています。

ある青年の作品との再会

同じく十二月のある日、岐阜市の伊奈波神社近くにある「水の音ギャラリー」に行ってきました。「生きるを彩る」とある居場所からあふれるアート」（二〇二一年十二月四日～十二月二十六日）に、「安田先生も知っている人の作品が展示されているよ。一緒に見に行きましょう。」との音楽仲間からのお誘いを受けてのことでしたが、そこで、ある青年の作品に十数年ぶりに再会しました。

関谷正和さんという男性の作品です。彼は、校長を務めていた学校の生徒でした。幼い頃から描くことが大好きで、当時も、紙と鉛筆があればいつもご機嫌の様子でした。また、鮮やかなタッチの色合いで描かれたパソコンアートも

を尊重しつつ、共に歩んでいたいただける「寄り添い型」のパートナーシップが求められているように思います。

多様性尊重の社会をめざして

そのためには、まず「知る」からはじめませんか。実際に足を運び、見る、聞く、手に取るなど、文化芸術にふれてみると、何か感じるものがあると思います。ちなみに、私は「生きるを彩る」とある居場所からあふれるアート」で、関谷君の「虎」の焼き物と、関谷君が通う「夢工房・JIN」の小皿四枚を購入しました。笑っている「虎」は今にも動き出しそうで、いい年を迎えられそうだったこと、そして、私の大好きな水色と白い花びら状の模様に彩られた小皿で妻の手料理を食べたらこれ以上の幸せはないと思えたからです。今、私の生活はこうした作品に彩られているのです。



学校と家庭

ともに見つめる子どもの健康

令和三年四月一日。育児休業を経て、八年ぶりに現場復帰しました。不安と緊張でいっぱいだった着任初日、まずは児童全員の名前を覚えました。本校は児童数十二名、複式三学級の小規模校です。豊かな自然に囲まれ、ゆったりとした時間が流れる天空の地です。明るく元気で、素直な子どもたちの笑顔があふれています。保護者の方も、学校の活動に携わっ

てくださる地域の方も、みなさんが児童十二名の名前と顔を覚えていらっしゃり、「みんなで子どもたちを育てている」ことを肌で感じます。夏休みの「寺子屋」、伝統として守られている棚田に関わる活動、地域連合運動会等、そのひとつひとつの活動において、保護者や地域の方々は無くてはならない存在です。

健康に関わる行事も例外ではありません。先日、祖父母・親子ブラッシング教室を開催しました。毎年、学校歯科医と歯科衛生士二名が児童とその保護者・祖父母を対象に保健指導をしてくださいます。この行事は、乳歯の段階から虫歯

の処置・未処置歯を有する児童が多く、時には一人あたりの歯保有数も多いという本校の健康課題を受けて、五年前に始まりました。多世代世帯が多いという地域の実態を踏まえ、保護者だけでなく、子どもたちの生活を日々支えてくださっている祖父母も交えてともに学ぶという形が、本校のブラッシング指導の特色です。歯のみがき方に加え、フッ素、おやつを選び方・食べ方、歯肉炎予防、様々な歯みがきアイテム等のお話は、おうちの方にとっても学びが多く、参加できてよかったとの声をいただいています。親子（あるいは祖父母と孫）が一緒に歯・

口の健康づくりを学べる機会が毎年あるなんて、同じく子育てをしている私にとってはとても魅力的で、岩滝小の子どもたちとおうちの方が本当にうらやましいです。

健康というものは、病気やけがをした時は意識が向きやすいものですが、とりわけ子どもたちにとっては特別なことが何もない限り、興味関心が得られにくいものです。一方で、歯・口の健康づくりは、健康を保持増進するための努力に対する成果がわかりやすく、

止めることが可能です。毎日鏡を見て、自分の歯や口腔内の様子を観察すること、自分の体や健康に興味関心をもつきっかけになればと思っています。

また小規模校の良さは、なんといっても個に応じた指導がしやすいことです。歯と口の健康づくりにおいても、継続的な個別指導に取り組んでいます。月に一度、全員が歯の染め出しをします。みがき残しを確認するとともに、それぞれの口腔状態に合った歯のみがき方を確認しながら個票に記録し、子どもたち自らより良い歯のみがき方を模索しています。新型コロナウイルス感染症対策により様々な制限のある昨今ですが、十分に対策を講じながら活動を継続できていることも、小規模校ならではのありがたい側

面です。

健康というものは、病気やけがをした時は意識が向きやすいものですが、とりわけ子どもたちにとっては特別なことが何もない限り、興味関心が得られにくいものです。一方で、歯・口の健康づくりは、健康を保持増進するための努力に対する成果がわかりやすく、『自分の体は自分で気をつけて、大切にすれば応えてくれる』という極めて重要な実感を与えてくれる^{※1}と言えます。丁寧な歯みがきを継続すれば、虫歯になるリスクがぐっと減るだけでなく、軽度の歯肉炎は比較的短い期間で改善していきます。CO（要観察歯）といわれる、治療が必要な虫歯の一手手前の状態も、適切な歯みがきやおやつの取り方の工夫改善で進行を

子どもたちの健康課題は歯・口に関するだけでなく、食事、睡眠、感染症予防、心の健康など日常生活の多岐にわたります。生涯にわたって自らの健康をはぐくむ力の育成が求められている今、多種多様な健康課題の解決やさらなる健康の保持増進には、学校と家庭、地域の連携が不可欠です。学校、家庭、地域がひとつになって、子どもたちの健康を支え、見守ることで、家族みんながより健康な生活を送れることを願っています。

※1 日本学校保健会「生きる力」を育む
学校での歯・口の健康づくり より

すべての出会いに感謝して

岐阜市立藍川中学校

教諭 小川 千咲

「私の先生」と言われると、保育園から大学の先生、三歳から音楽を習う中で出会った先生、これまで一緒に働いてきた先生、全てが「私の先生」です。その先生方は、私に多くの愛情を注いでくれました。その出会いがあったからこそ、今の私があります。

私は、音楽と共に人生を歩んできました。幼少期から生演奏で色々なジャンルの音楽に触れる経験や、演奏することで自分の心や聴いている人の心を動かす喜びをたくさん味わわせてもらいました。その中で出会った先生方は、魅力ある人ばかりで、音楽を通して生き方や考え方、努力することの大切さなど、今の私の軸となる部分を形作ってくれました。音楽は、言葉がなくても相手に伝わるものです。その人が奏でる音で全てが分かると言われ、自分の奏でた音で尊敬している先生方と繋がりたいたい、音楽を共有したいと思い、努力を重ねました。先生方が求める音が奏でられた時、そこには言葉のいらない世界が広がり、音楽の素晴らしさを知ることができました。心で繋がる貴重な経験が、いつしか私を音楽に関わる仕事に就きたいと思わせるようになっていきました。

私に人を大切にすることを教えてくれたのは、中学二年生の時の担任の先生でした。初めは口うるさくて、事細かに行動を見られていることを苦痛に感じ、思春期で素直になれない頃、少し話せば、私が思っていることを言い当てる先生のことや、反論できない自分が嫌でした。当時、学級委員をしていた私は、先生と話す機会が多く、自分の思いを話したり、生活ノートの先生からのコメントを読んだりするうちに、気付けば私を尊重してくれる先生の姿勢に惹かれている自分がいきました。その先生とは縁があり、三年生でも担任をしてもらいました。先生の話や通信に

書く内容は、考えさせられることが多く、真剣に読んでいたことを思い出します。心に残った通信は今でも大切に持っています。それから、私が教師になって再会したときのことです。昔話に花を咲かせていると、「二年生の時に書いた作文を覚えているか?」と言われました。そんな記憶は全くありませんでしたが、当時、体育祭の練習が上手くいかずに悩んでいた私は、その思いを書くように言われ、作文を書いたようです。「あの作文は本当によくて、ずっと大事にとっていた。」と言われ、大変驚きました。卒業して十年以上経っているにもかかわらず、ずっと大切にしてくださっていたことに感動し、胸が熱くなったのを覚えています。先生は生徒のことを大切に思い、どれほどに愛情を注いでくれたのか、当時は分かっているようなつもりでいました。しかし、先生と再会して、つい最近のことのように話に花が咲くことや作文の話を聞いて、生徒を大切にするということの本当の意味を教えてもらったように思います。

私に先生という職業の魅力を教えてくれたのは、これまで一緒に働いてきた先生方です。毎年、所属学年や職員が変わる中で必ず思うことがあります。それは、私の周りには必ず魅力的で憧れる先生、同志がいることです。「この人から学びたい!」「この人みたいになりたい!」そんな風に私の心を動かす先生方がいつも周りにいて、困った時や悩んだ時も手を差し伸べ、支えてくださる温かい先生方との出会いにも恵まれてきました。どの先生も、目の前の生徒にとってよりよいものを求めるために手を抜かない人たちばかりです。よりよいものを求めることは、決して簡単なことではなく、時間や手間がかかるものです。しかし、それを創り上げていく過程やアイデアをすり合わせていくところに面白さや楽しさがあり、それを一緒に追求できる同志がいることも幸せなことです。

こうして、多くの先生方から教えていただいたことは私の宝物であり、現在、生徒と向き合うときの軸になっています。これまでに出会った人たちへの感謝の気持ちや学び続ける姿勢を忘れず、これから出会う先生方や生徒たちに宝物と思ってもらえるものを渡せる人でありたいです。

わが家の宝物

子と共に成長する木

我が家の宝物といえば当然家族ですが、今回は、家族全員で大事にしているグレイプフルーツの木について述べたいと思います。

グレイプフルーツの木が我が家にやってきたのは、今から約五年前の事です。次女の卒園の際に、同級生の男の子からいただきました。男の子は、家でグレイプフルーツを食べ、その種をまき、その後、それが発芽して苗木になりました。その苗木は、卒園の際に同級生全員に配られ、その一本が我が家にやってきました。

グレイプフルーツは、暖かい地域で栽培される植物です。日本では比較的暖かな静岡県で最も多く栽培されており、寒冷地とされる中津川市では、その栽培には工夫が必要です。冬季の間は、もちろん屋内で育てていますが、朝晩のみ冷え込む春や秋は、夜は屋内で、日中は暖かく日光の当たる屋外に出しています。冬季の間は、それほど水を与える必要はありませんが、夏の暑い時期になると水や肥料を与えています。夏の水やりは子どもたちが率先してやってくれ、グレイプフルーツの木をみんなで育てているという意識があります。

グレイプフルーツは実を付けるまでに十年以上かかるといわれています。ちょうど子どもたちが大人になる頃に実を付ける計算になります。毎年確実に成長しているグレイプフルーツの木。でも、なかなか実を付けてくれないもどかしさ。子どもたちも毎年確実に成長はしているが、人としては、まだまだ未熟。このグレイプフルーツの木という存在が、子育てとはどういうものかということを教えてくれているような気がします。

今日も玄関で家族全員を見送ってくれている、グレイプフルーツの木。



リレエッセイ 18

岐阜市立三輪南小学校PTA

瀬瀬 栄司



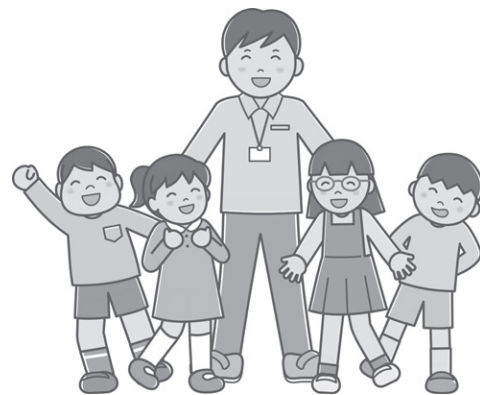
子どもたちの育ちを支える保育、教育関係の皆様への感謝

現在小学校二年生の娘は私が三十九歳の時に生まれました。結婚して十年、子宝に恵まれず、妻とこれから二人でどのような生活をしていこうと話していた時に、私を忘れないでといった感じで二人のもとにきてくれました。出産は一週間遅れて難産で、しかも四、三五〇グラムというビッグベイビーで取り上げたベテラン先生もびっくり(現在はクラスでも一、二番に小さいです)。私は休めで立ち会うことが出来てすぐに娘を抱くことが出来ましたが、妻は貧血ですぐに抱くことが出来なかったことを覚えています。

私は男兄弟で育ったこともあり、娘が生まれなければ「プリキュア」も「すみっコぐらし」もきくと知らずに過ごしていたことでしょう。すくすくと育ってくれて、日々驚きを感じさせてもらっています。

そんな娘が小学校一年生に上がる時に、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言によって二か月間の休校となり、当たり前前に出来ると思っていた入学式が六月まで延びました。また、私たち夫婦はエssenシャルワーカーで仕事を休むことが難しく、両親も高齢で少し離れたところに住んでいて娘は学童保育を利用させていただくことが出来て本当に感謝しました。現在も学童保育を利用していただいています。私は仕事の関係で学童保育の先生の人員不足や給与保障についての記事を読んだり、話を聞く機会があります。まだまだ少子高齢化が進み、共働き世帯は増えると言われています。私は保育園での六歳まで育ち、学童保育での育ちは学校教育と同等に大切だと思っています。少しずつですが国も保育士や学童保育の指導員の給与保障にも動き出していること、子ども庁の設置などに期待しています。

最後に、未来を担う子どもたちに関わってくださっている教育、保育関係者の方々に日々感謝し、さらに子どもたちが生き活きと育つ地域の一員として関わっていきたいと思っています。



次回は… 山県市立桜尾小学校PTA 服部 友一さん

足るを知る

数年前、会食の席で二十代の女性と話をしていました。私が、「だんだん年をとってくると健康のことが気になってね…」と話すと、彼女は、「私は全然気にしてません」と返しました。「そうだろうね、あなたは若いから、まだ心配する必要はないよね」と言うと、その答えは、かなり衝撃的なものでした。「いいえ、私、長生きしたくないんです。三十まで生きれば十分かな。だからガンとかになったら、ラッキーって感じですよ」

そこには、かつての尖った若者の、太く短くいきるぜ、といった気負いもない、率直な感覚がありました。その、少しでも長生きしたい、という一般的な願望とのずれに横にいた同僚も驚いていました。私はというと、驚きとともに考え込んでいました。「今の若者にいったい何が起きているのか」と。というのも、それ以前にも、二十代の男性から同じ言葉を聞いたことがあったからです。「十分生きたから、もういいか」

こうした人間関係のトラブルや貧困等からくる絶望とは異質の穏やかな希死念慮は、昭和に育った世代からすると理解しがたいものです。私が育った頃の日本はまだまだ貧しく、おいしい食べ物やおもちゃ、服などを十分に買ってもらえませんでしたし、家族で旅行に行った経験もありません。故に、今でもそう

した物に対する執着はかなり強いものがあります。自分の子どもにも、どこかへ出かけると、お土産を買って帰ったし、週末には家族で遊びに出かけたり、外食をしたりして、ちょっとした贅沢を楽しんでいました。子どもの喜ぶ顔を見たいという思いが強かったのですが、あまりにも与えすぎたのではないか、と思うこともあります。

私が話した件の若者たちも、おそらくそうした、ある意味恵まれた環境で育ち、楽しい経験を積み重ねた結果、「もう十分」といった状態に行きついたのでは、と思います。「何の問題もなく、充足した環境で育った」人間の一つの到達点です。もちろん、このことはまだ一部に見られる現象ではありますが、社会にとっては深刻な兆候です。社会全体の活力や創造力の低下、ひいては、更なる人口減少につながるからです。

こうした課題の根底にあるのはライフスタイルと大人の子どもに対する接し方、眼差しの変容です。子どもにとって不快となる要因をことごとく排除していく方向に社会は進んでいます。

例えば、「ほめて育てる」といった言葉はよく耳にするとありますが、幼少時より叱られることもなく、ほめられ続けた人間が社会に出た時の不適応について

よくよく吟味する必要があります。というのも、若年層の犯罪は減少傾向にありますが、社会不適応に起因する深刻な内容の犯罪はしばしば目にするからです。メディア等で流布される言説やそれによって形成される、なんとなく的々、認識に左右されることなく、もう少し密に考え、具体で検証しながら判断を下していくべきです。

そして、そうした現実に向き合う真摯な姿勢と認識があれば課題解決の方法も見えてきます。子ども期に物を与えすぎたり、守りすぎたりせず、乗り越え可能な適度な試練を与えることです。これまでも言われてきたことですが、快適な状態が続くと人は劣化してきます。「充足した環境」というと聞こえはよいのですが、「体験の貧困さ」と同義でもあります。

「足るを知る」という言葉は、飽くなき欲求に対する戒めの意味も含まれるのですが、満ち足りた人間の生へのエネルギーの欠如に対しても必要な考え方です。欲求は、足りないことと表裏一体で、尾籠な話ですが長い便秘が解消されるだけで幸福感は得られるものです。こうした、「ささやかなこと

にも幸せを感じられる心の在りよう」が大事で、それを生み出すための「《不足》」の供給システム」を構築していくことが急務であるように思います。



PN. サカナツリオ (高山市)



PN. 川上剛大 (高山市)

question 1

出題・市村 優成 (関市)
〈答えは41 ページ〉

島の中に6匹の動物がいます。何という動物でしょう？



一人ひとりの笑顔が輝く 絵本読み聞かせ活動

瑞浪市立陶小学校PTA

本校では、年間三回、朝活動の時間に地域ボランティアの方を迎え各学年の家庭教育学級委員を中心に「読み聞かせ活動」を行っています。今年度は、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「読み聞かせ活動」が延期になり、なかなか実施する事ができませんでしたが、秋に入ってようやく読み聞かせを再開することができました。

読み聞かせをする本は色々で

す。読み聞かせは全学年が対象なので、本を選ぶときは読み手が考えて本を選びます。今までの読まれた記録を確認しながら、これまでに読み聞かせたものと重ならないようにするのはもちろんのこと、家にあるおすすめの本を読む人もいますし、自分の担当する学年に合わせて本を選んだり、中には市の図書館から大型、中型絵本を借りてきたりして、本を準備していただき、子どもたちの

顔を思い浮かべながら選んでくださっています。
この秋に読んでいただいた本は、一年生は「おおきなおおきなおいも」二年生は「給食当番」「カエルをのんだとさん」、三年生は「にやーご」、四年生は「としょかんのよる」、五年生は「外郎売」、六年生は「朝になったのでまどをあけます」「なあなあ あそぼー」「ふしぎな月」を読んでいただきました。



読み聞かせに教室へ向かうと、子どもたちは時間前に机を後ろに移動させて聞く姿勢になっていきます。「今日、本を読んでもくれる人は、だれ?だれ?」「だれのお母さんだろう?」と最初は少しざわざわしていますが、本を読み始めると誰一人としておしゃべりをやめて、全員が本当に真っ直ぐな目をして真剣に聞いてくれています。各教室を回り読み聞かせの様子を見て気付く事は、発達に応じて読み聞かせの反応が違うことです。低学年の子はストレートに感情を出してくれます。面白い時は声を出して笑ってくれますし、気になるところは声に出してくれます。高学年はずっと読み聞かせに触れているのか、読み聞かせに対する

姿勢ができていてどんな話もしっかりと聞いてくれます。さすが高学年だと思えます。低学年と比べると反応が少しもの足りないと思いますが、軽くなすきながら静かに笑って聞いてくれています。読み聞かせをしていてうれしいことは、終了直後の感想です。読み聞かせが終わると感想の手が上がり、読み手に対して気遣いの言葉をかけてくれるので、手ごたえを感じることができます。

今は行っていないですが、コロナ前は大型紙芝居を使い、五、六人でセリフを分担し迫力ある読み聞かせをしていました。読み聞かせが終わると会議室に集まり、お茶とお菓子をいただきながら、読み聞かせの様子や感想などを交流しま

す。「授業参観では後ろ姿を見る事が多いので、いつもと違う目線で子どもの姿を見る事ができて良かったです。」などいろいろな話が出ていました。また、各家庭の話も聞けるので、情報交流ができて楽しいひと時がもてます。今後、コロナ状況が改善されれば、交流の時間をもちたいと考えています。

「読み聞かせ活動」は、子どもたちの笑顔、キラキラした眼差しを見る良い機会です。子どもたちが、読み聞かせの時間を心待ちにしていることを励みに、これからも読み聞かせを通して楽しい時間や、たくさんの人や本に触れられるように活動を継続していきたいと思っています。



親の背中 ⑫

共に学び、共に成長する

各務原市立鵜沼第二小学校

P T A会長 堀愛

子育てを開始してから、早や十二年の月日が経ちます。

初めての子育てとあつて、日々、悪戦苦闘しながら、息子と向き合ってきました。

初めて言葉を発した、初めて立った、歩いたなど、息子の成長を一番近くで見えました。親にとってこれほどうれしいものはなく、息子と共に私も成長してきたと考えています。

「親の背中を見て子は育つ」と言われますが、もちろんそういう側面もあるかと思いますが、我が家の場合は、子を見て親も育てられていると日頃から思っています。

息子が小学四年生の時に、各務原市に引っ越しをしてきました。もちろん転校を伴います。

地域の大人の背中

岐阜市立岐阜中央中学校

P T A会長 牧野浩之

私の家は代々和菓子屋を営んでいます。自宅と店が一体になっているので、常に親が家にいて働いている姿を間近で見られる環境で育ってきました。私が小学生の頃はいわゆるバブル経済真っ只中。両親はとも忙しく、普段から遊んでもらうことや旅行へ連れて行ってもらうことなどは一切ありませんでした。大型連休や夏休みに家族旅行へ出かける同級生達をうらやましく思うことはありましたが、私たちの為に一生懸命働いていてくれることを感じていたので不満に思うことはありませんでした。

そんな親の背中を見て育った私は、途中迷った時期もありましたが、大学在学中に家業を継ぐことを決意しました。大学卒業後、東京の製菓学校に入学し、製菓学校を卒業してからは和菓子屋に修業へ。修業先は浅草に近く、下町文化の色濃く残る地域のお店でした。近所には気さくな人々が多

幼稚園・小学校と六年ほど一緒だった友達ともお別れになってしまいます。私も慣れ親しんだママ友たちと別れることになりましたし、初めての土地ですから、不安な気持ちが強かったのですが、息子は「僕は友達作るの得意だから、楽しみでしようがない」という、何とも心強く、安心させてくれる言葉をかけてくれました。

引っ越しした後、すぐに友達と遊ぶ姿をみて、我が子ながらに誇らしかったことを、今でも鮮明に記憶しています。

また、転校後、息子は「剣道」を習い始めました。主人は経験者ですが、私にとっては、初めて見る光景でしたし、初めてのことで相当戸惑いました。

剣道は「礼に始まり、礼に終わる」武道です。先生方へのご挨拶など礼儀作法から教えていただけます。

息子が通う道場は、原則、親が練習を見学することになっています。ですから、稽

く、朝お店の掃除をしていると挨拶や話しかけてもらえたり、配達に行くといろいろな話をしてもらえたりと、よそ者の私にとっても優しく接してくれました。

浅草付近に住んでいる人は、地域に誇りを持ち、愛着を持っている人がたくさんいました。その理由は何だろうと考えると祭りではないかと気づきました。三社祭をはじめ地域に根付いた祭りがたくさんあり、祭りとなると町内が一体となり、神輿を担ぐだけでなく子どもたちの為に縁日を開催したりと大人も子どもも一緒になって楽しんでいる風景があらちちらで見られました。楽しむ大人の姿を見て子どもたちは祭りなどの地域行事を楽しいものだと思し、小さな頃から地域を好きになっていくのだと感じました。

また、祭りを通して地域の大人から子どもまでが顔見知りになり、地域全員で子どもを育てようとする意識が自然と生まれてくるようでした。大人は他人の子でも悪いことをしていれば叱る。感情的に怒るのはなくきちんと論理的に叱り、子どもが納

古始めや終わりの挨拶も、親も正座をし、先生方に礼をします。

夏の暑い日も冬の寒い日も、道着・防具を付けて頑張る息子。私もどんな日でも、息子を見届けるとともに、礼儀作法を学びました。

剣道未経験の私にとっては、全てが目新しく、初めての経験ですから、息子と私は、ある意味、一緒に成長していると言えます。我が家の教育は、息子と親が「共に学び、共に成長する」ことです。

これから中学・高校と新しい世界に飛び出し、新しい挑戦をしていく息子。当然、色々な壁にぶつかることもあるでしょう。でも安心してください。父も母も同じです。

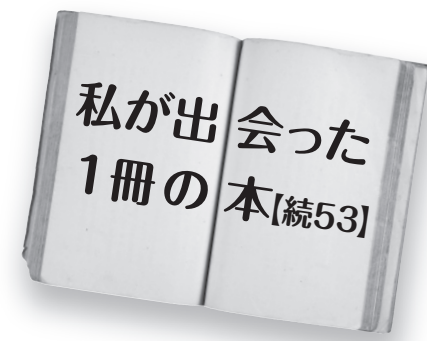
あなたと共に、その壁を乗り越える努力をしています。

我が家は、「共に学び、共に成長する」ことを止めることはありません。

これからも一緒に頑張りましょうね。

得し謝ると優しい顔になる。そんな光景をよく見かけました。その姿を見てこの地域は素晴らしいと思うと同時にうらやましくも思いました。この修業時代の経験が地元に戻ってから水防団などの地域活動や、コミュニティ・スクールに関わりたと思うきっかけになりました。

岐阜中央中学校ではコミュニティ・スクールの一環として、生徒がボランティアとして地域行事へ積極的に参加することに力を入れています。地域の皆さんと関わり、社会での役割を果たすことで自立して生きていく力を身に付けて欲しいからです。核家族化が進み、親以外の大人と関わりを持つことが減ってきた現在、生徒には親の背中だけではなく地域の大人の背中も見ること視野を広げ、様々な学びを得て成長に繋げて欲しいと思っています。そして自分の生まれ育った町に誇りを持ち、愛着を持って次世代の地域を支えてもらいたいです。



源氏物語

著者・紫式部（平安時代の作品）

養老町立上多度小学校 校長

古川 正浩

「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。」

この書き出しを聞いて、高等学校の古典の授業を思い浮かべられた方が多いのではないだろうか。先日亡くなられた瀬戸内寂聴さんが現代語訳されたものは、平安時代の文化を感じさせながら、現代人の私たちにもわかりやすい言葉で語りかけていただけるものでした。ご冥福をお祈り申し上げます。さて、私が、この本と出会った

きっかけは、実は漫画の「あさきゆめみし」という作品でした。中学一年生のころ、女の子たちが「面白いよ。」と話しているのを聞き、漫画を貸してもらい読んでみました。私のもっていたお姫様のイメージとは違い、動きや行動は少なく、外での活動やいろいろな人との交流がない中で、心や気持ちが豊かに表現されており引き付けられました。この漫画の原作が「源氏物語」であることを知り、原文を読んでみたいという気持ちから本を手に入れました。この本を手にしたことがきっかけで、私の国語人生（教師）がスタートしたといってもよいと思います。

光源氏のようになりたいたいと思う人は多くいるのだと思います。この作品に描かれる宮廷生活は雅で、自分もこのような世界で生きてみたいと思わせてくれます。また、その中で繰り広げられる一大ロマンスは心ときめかせる美しい世界が描かれ、世界に誇る文学作品であると思います。しかし、この作品の真の魅力は、登場してくる人々の心の葛藤や人間臭さではないでしょうか。平安時代の貴族も、喜び、怒り、泣き、笑いと私たち現代人と同じであることを実感させてくれ、何の不自由もないように見える光源氏も「人間の業」

を背負いながら生き、自分のしてきたことを自分がされるというような、「因果応報」が物語の柱建てとなっている作品なのです。社会の授業で習った仏教の思想が随所に織り込まれていることも、作品の背景を壮大にしている一因だと思います。

この作品と出会い、私は国文学科へ進路を取り、擬古物語（源氏物語の流れをくむ作品群）を研究し、古典の楽しさを味わうことができました。私は、「とりかへばや」（鎌倉時代の作品）を研究しました。この作品は、現在私たちが直面しているLGBTの問題を正面から取り上げ、人間の本当の幸せとは何かを考えさせてくれるものでした。平安時代や鎌倉時代からLGBTのことが、文字に記され、文学作品として昇華されていることに驚きを感じ感動しました。古典文学は、古臭いものではなく、今の私たちと何ら変わらない人間の生きざまを描き出し、読む私たちを励まし、元気づけ、勇気をくれるのだと思います。

上多度小学校では、『読書百遍』という校訓を掲げ、読書教育に力を入れています。本校の卒業生である故水谷三郎様の「本に親しむ子が増えてほしい」というご意志を受けて「水谷文庫」を創設し、「水谷賞読書感

想文コンクール」を開催しています。本に親しむ児童を増やし、本の世界を楽しむ児童を育てよう日々取り組んでいます。本に親しみ、自分の人生の糧としていつてくれる児童が増えてほしいと願っています。

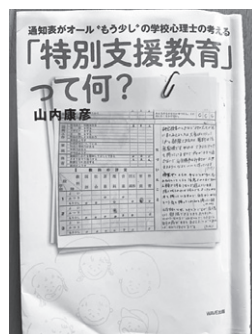
特別支援教育って何？

著者・山内 康彦

出版社・WAVE出版

美濃市立美濃中学校 教頭

勝川 悟



著者である山内康彦氏は、岐阜県で教員を二十年勤めた後退職し、現在は一般社団法人障がい児成長支援協会の代表理事を務め、学校心理士やガイダンスカウンセラーの資格を取得されています。

本年度、私の勤務校では山内康彦氏を年間五回お招きして、支援を必要とする生徒達への支援方法

について、職員指導をしていただきました。その時、山内氏から寄贈していただいたのが「特別支援教育って何？」です。この本を職員で回覧しました。

本の最初に、山内氏の幼少期の出来事が記載されています。

「こんな問題児見たことがない」「通知表がオール『もう少し』」「クラスみんなからいじめられ」など、辛い体験が記されています。その当時は「発達障がい」という言葉が世間一般で知られていない時代であり、山内氏は、大人になってから自閉症・ADHDだと診断を受けたそうです。山内氏は「発達障がいによる二次障がいを起こしかけたけれど、起こさずにすんだ。それは、両親や先生・他の大人たちが共感的に受け入れ、苦手なこ

とを克服するのではなく、子どもの得意なことや好きなことを伸ばしていくという方向性で、私を導いてくれたから」と言っています。

現在は、十人のうち一人が、発達障がいや何らかの支援が必要なお子といわれています。視力が弱い子どもにメガネを与えるように、困っている子どもたちに対して、何に困っているのか理解し適した支援ができれば、子ども達もつ本来の力を発揮できるようになる。そのため大人の見極める力を向上させることが必要だと思いました。

また、本の中で山内氏は様々な支援方法について述べられています。まず、子どもの状態を正確に把握するために、「発達検査」を受けて、専門の医師や心理士から具体的にどのような支援や療育、配慮

をする必要があるのかを教えることも、子どもを勧められています。私も教育に携わる身でありながら、発達障がいについての指導は自己流です。科学的に「発達検査」の結果をもとにして専門家から教えてもらったことを、保護者と教員が情報を共有して実行することが、よりよい成長につながると感じました。

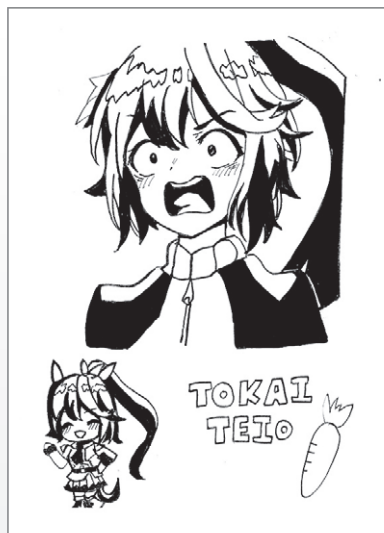
次に、「ピグマリオン効果」と呼ばれるように「褒める」ことの重要性を述べられています。ただ、その場の思い付きで褒めるのではなく、「位置づけ」「価値づけ」「方向づけ」という褒め方を意識することが大切だそうです。「価値づけ」が結果の価値を認める言葉になりますが、それを支えるための普段からの「位置づけ」を最も大切に

してほしいとのこと。ポイントは「あなたが病気に心配していたよ。」「あなたが産まれたとき、本当に嬉しかったよ。」など、その子をしつかり「位置づけ」しているかどうかが一番重要だと述べられています。存在そのものに感謝するような言葉かけこそ子どもたちに安心感を与えるものと思いました。

特別支援教育は、支援の必要なお子のために行う教育のように感じていましたが、「特別支援教育って何？」を読んで、特別支援教育は「バリアフリー」のように全ての生徒にとって安心できる優しい教育のことであると気づきました。全ての生徒への支援のあり方を考えることができる一冊なので、教員にも保護者にも読んでいただけるとよいと思います。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. S・Y (岐阜市)



PN. 木村 陽平 (各務原市)



出題・中村 桃寧 (岐阜市)
〈答えは41ページ〉

いつも調子が良い先生って
どの先生？

子の思い

運動会、楽しかったよ

恵那市立東野小学校

三年 千藤 愛莉

今年の運動会は、コロナでえんきになり、十一月に行われました。青空で、とても気持ちのよい日で、赤組がゆう勝し、とてもうれしかったです、楽しかったです。

運動会でよかったことは、自分で行動できたことです。理由は、人に言わずにできたからです。私は、ミニハードルをじゅんぴする役わりがあったけれど、そのことをわすれず、決められた所にならべることを、てきばきできたと思います。

もう一つよかったことは、なかまと力を合わせてできたことです。リレーでは、そらさんが一番でスタートがよかったので一番になったと思います。

います。他の人たちもバトンパスがよかったのすごいいい思いました。閉会式では、ちなさんが声をかけたことで列がまっすぐになってよかったです。来年の運動会もがんばりたいです。

魚たち

下呂市立金山小学校

四年 星谷 将義

学校でイベントの案内プリントをもらってきました。「発眼卵埋設放流とマス釣り体験」というイベントです。おもしろそうだったので申し込みました。前日に釣具屋さんに行き、釣りざおとしかけとブドウ虫を買いました。

当日の朝になりました。川原に行くと、川の中につつを石で立てました。おじさんから卵をもらいました。イクラみたいでした。けれどイクラと

くらべると、少し色がうすかったです。卵に黒っぽい点がありました。目だそうです。水をすくってつつに卵を流し込みました。その後つつをぬいて、おとうさんが小石をかぶせてくれました。おじさんの話では、三週間くらいで魚になり、二か月ぐらいは石の間で生活するそうです。

その後まぜ川下流漁協に行きました。みんなでマス釣りをしました。最初はイクラで釣っていましたが、と中からブドウ虫にかえたら、いっぱい釣れました。

釣った魚でおじさんが「つぼめき」というのを教えてくれました。自分でもやって上手にできました。魚をやいてもらって、三びき食べました。すごくおいしかったです。

このイベントに参加して大ぜいの人が出て、にぎやかになったので楽しかったです。魚がおいしかったので、ぼくも魚を使った料理をしてみたいです。

意志ある所に道は開ける

瑞穂市立穂積中学校

三年 中村 優那

この学校に入学した一年生の時に、当時の生徒会執行部の先輩方と一緒に「穂積中共生宣言」を作成してから三年が経とうとしています。

先日、私は後期生徒会長に立候補し、信任され、毎日「穂積中共生宣言」の実現に奮闘しています。「こなすだけの取組ならやらない方がよい」「どうすれば生徒主体の生徒会活動を実践できるのか」など、いつも執行部の仲間や各委員長と話し合いを続けています。なかなか思い通りにいかないことが多く、更に、進路選択のこともあり、正直苦しくて逃げ出したくなる時もあります。でも、その苦しみや困難を乗り越え、「ああ、やってよかった」と達成感を感じられる度に、「やりがい」を実感し、また明日も頑張ろうと思えます。「全

親の願い

自分の個性を知り、豊かに生きる

大垣市立中川小学校

PTA会長 藤塚 茂之

子どもたちには運動が得意な子、勉強が得意な子、あるいは身体に障がいがある子や外国人の子など様々な個性があります。

私の息子には生まれつき尿が腎臓に逆流してしまうという疾患があります。小さな身体は手術に耐えられ

るわけもなく、尿の逆流が原因で高熱を出すたびに、医師から危険な状態であると言われながら育ってきました。普通の子どものように体育の授業で思いきり運動したりプールに入ったりということができない息子ですが、医師の治療のおかげで合併症も併発することなく、成長と共に疾患の状態も良くなり元気で過ごしています。また、学校や周囲の理解もいただき、今ではびっくりするぐらい大きな身体に成長してくれてあげたい限りです。

息子が生まれ疾患を知ったときは、ただただ「元気に成長してほしい

県立大垣桜高校
まんが研究部

自動販売機



逆さ言葉

うたう とらと うたう

(歌う トラと 歌う)

浅野 叶登 (岐阜市)

「健康で長生きしてくれさえすればいい」と思っていました。親の「エゴ」でしょうか、「勉強頑張れ」「ちょっとは外で運動しろ」などいふような思いが芽生えてきます。しかし、成長と共に息子も「僕は腎臓が悪いから激しく運動できない」「あまり身体に負担をかけられない」「など正論を振りかざしてきます。普通の子どもとは違う身体であるということ。息子が自身を受け入れていることはありがたいのですが、子どもに対する親の思いというのはエスカラーとしていくものだと感じています。

少し話が逸れましたが、息子は将来、疾患を抱えながら社会に出ていくことになるでしょう。学校というのは勉強や運動だけではなく、学年を超えて同世代の子どもたちとの社会性の基礎を学ぶ場だと考えています。現在、息子の病気は学校や周囲の理解に守られているからこそ、今を元気に楽しく過ごすことができ

います。しかしながら、社会に出ればいろんな考え方の人がいますし、守ってくれる人ばかりでもありません。そういった社会の中で、自分の特徴や個性を自分自身で理解しながらも、相手の特徴や個性も理解することができ、「互いの個性を尊重する意識」をもった大人に成長してほしいと考えています。そして、友だちのように身体は満足ではないかもしれませんが、周囲の人を大切にしながら、違う尺度で豊かさを感じることができ、そんな人生を歩んでほしいと願っています。

育てた？ 育った？

多治見市立平和中学校

PTA会長 奥朋也

『親の願い』を最初に頭に浮かべたのは、子どもの名前を考えたときでしょうか？ 明るく皆から愛される子

になってほしい。そんな願いを込めた時から十数年。自分では言いにくいですが、「本当にいい子に育てたね」と周りから言われることもたまにあり、子どもの成長を嬉しく思います。ただ父親自身としてはあまり、育てたという感覚はなく（母親に私が育てたんだ、と怒られそうですが）、子どもが育ってくれたと思っています。

長女は音楽が好きで、母親の影響もあり小さいころからピアノを始めました。中学では吹奏楽部、高校では箏曲部に入り、仲間と共に一つの曲を創り上げることで成長していき、仲間との方向性の違いから衝突することもあり、家で悩みを打ち明けることもあり。そんな時はまず、親が感情的にならず落ち着いた話をしてあげること。親としての考えは伝えるが、結論は自分で出させること。そんなふうにしてきました。

長男は体を動かすことが好きで、

私の影響もあり小学三年生の時に野球を始めました。良い仲間恵まれ大好きな野球を思い切り楽しめました。技術も上達し、団体スポーツをする中で心身ともに成長していきましたが、中学に上がったとき野球をやめる、と言ったことで大きな転機がありました。野球一筋だった私ですが、口が裂けても「野球を続ける」という言葉だけは言つまいとして、ぐっと我慢です。それから少し時間はかかりましたが、長男は自分でバスケットボールというスポーツを選びました。

自分のことは自分で決めるようになってほしい。これが今の親の願いのひとつでしょうか。これからは自分なりの答えが自分で出せるようになってほしいですが、まだ任せきりというわけではなく、この子はどうしていいのか？と、見守っていきたいと思います。その結果、親が育てるというよりも、子どもが自分で育つ事

教育の窓

家庭で「生きる方向性」を身につける

岐阜市立黒野小学校

校長 古田 靖志

六年前のこと、私が校長になることを知った当時小学生の息子が、

私に指南をしてきました。「父ちゃん、全校朝会なんかの校長先生のクソ長い話は、生徒はだれも聞いとらね。絶対に嫌われるよ。」

「話はせいぜい二分やな。」

つい最近、高校生になったその息子とショッピングモールに出かけた時のことです。私がズボンのポケットに手をつ込んで歩いていくと、息子が私に向かって、「父ちゃん、ポケットから手を出しや」と言っていました。そして、「誰が見てるかわからんやろ」と。しばらくしてさらに言葉を付け加えました。「校長先生がポケットに手を

突っ込んでいるのを生徒が見たら、日頃偉そうなことを言っとるくせにと思われるやろ。」

息子には、これまで学校で接してきた何人もの立派な校長先生による「校長先生像」というものができあがっており、それが我が父親の姿とあまりにもかけ離れていることが不甲斐なく、心配でたまらないのです。そして、そんな親でも、学校で生徒からは嫌われてほしくないと思っただけでいるようです。

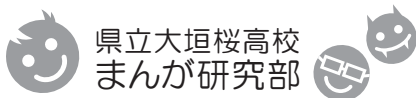
親の私は、これまでずっと自分の息子の不甲斐なさが心配で心配

で、その都度いろいろと言いつつ聞かせてきました。親が子どものことを心配するのは当然のことです。ところが、実は子どもも親のことを気にかけて、多少は心配しているのです。少しずつ頼りなくなっていく親がちょっとでもよりよく生きられることを願っています。

*

*

学校では、特に低学年の子どもたちはよくお父さんやお母さんの話をしてくれます。「校長先生、うちのお母さんの誕生日いつ知ってる？」と一人の子が言い出すと、その後はお母さんの誕生日クイズ



県立大垣桜高校
まんが研究部

ホワイトデー



逆さ言葉

てっかどん
こんど かって
(鉄火丼 今度 買って)

各務 市夏 (加茂郡)

攻撃が始まり、誰かがお父さんの自慢話をすると、他の子ども次々にお父さんの自慢を言い合います。

お父さんお母さんが大好きで、子どもから信頼されているこんな時期だからこそ、子どもにいろいろなことを言い聞かせることはとても大切だと思います。子どもたちは、親の真剣さや喜怒哀楽の表情を察知して、意外とすんなり受け入れていくものです。ただし、言ったことがその場でできるかどうかは別物です。何度も何度もしつこく言い聞かせることによって親の言いたいことを少しずつ理解し、その結果、「自分の生きるべき方向性」をつかんでいくに違いないと思います。

頼りなくなった親も、子どもから「これから生きるべき方向性」を謙虚に学んでいかなければならないでしょう。

教師は子どもの“伴走者”

羽島市立羽島中学校

主幹教諭 大野隆次

私は、本校の勤務に軸足を置きながら、福井大学大学院 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学 連合教職開発研究科（以下、連合教職大学院）に在籍しています。二年間の連合教職大学院での学びもこの三月でいよいよ終わりを迎えるようとしています。この連合教職大学院では、週末を利用して月一回のカンファレンスや夏季、冬季の集中講座を通して、大学教員や同僚とともに学校の課題に取り組み、協働実践力の質を高めています。本来ならば、車で片道、約二時間半かけて福井大学まで通うはずでしたが、コロナ禍により、この二年間はほぼオンラインでの授業となりました。連合教職大学院で学びを進めていく中で、重要

なキーワードの一つに「伴走」というものがありました。学校の主役は言うまでもなく子どもたちですが、我々、教師は子どもたちの歩みに「伴走」しながら支援をしていくというものです。

さて、本校で私は主に不登校または不登校傾向の子どもの支援を担っています。文部科学省の調べでは、二〇二〇年度、不登校の小中学生は全国で約十九万人となり、過去最多という報告がありました。これは本校でも例外ではありません。学校では不登校または不登校傾向の子どもに直面すると、当然ながら教師はそれを回避しようとして早期対応に努めます。場合によっては関係機関と連携しながら対応策を講じることも少なくありません。私の中に、とにかく何とかして登校させようという思いが強くありました。しかし、文部科学省が令和元年十月に通知した「不登

校児童生徒の支援の在り方について」に触れ、「学校に登校することだけが目標やゴールではなく、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つ」ということに気付かされました。

不登校の子どもを早期に復帰させたいという目先の現象にとらわれることなく、子どもやその保護者の内面に寄り添い、もっと長いスパンで支援していくことが必要だと感じました。目標やゴールはその子によって一人ずつ違います。学校で支援できるのは限られた期間ですが、教師は先を見据え、どうすれば本人が目標をもって前に進めるのかと一緒に模索することが「伴走」することだと思っています。光り輝く未来のために、不登校の子どもはもちろんのこと、全ての子どもたちの伴走者であり続けたいです。

家族で過ごす時間を大切に!!

本巣市立外山小学校PTA 所 美奈



我が家は、小学校六年生の長女、小学校五年生の長男、小学校三年生の次男と私たち夫婦と祖母の六人家族です。三人の子どもたちは、皆とても元気がよく、けんかもあります。仲良しです。

我が家で、約束というよりモットーにしていることは、『どんなことでも家族で話そう』です。

子どもたちは、良いことも悪いことも含めていろいろなことを私たち夫婦に話をしてくれます。その度に家族みんなで話し合いをします。うれしいことはみんなで喜び、悲しいことや残念なことはこれからどうしていくとよいかを必ず相談します。夕食はできるだけ

家族が揃って食べます。子どもたちの表情や話し方で少しでも心の状態がわかればと思っています。家族で一緒に過ごせる時間が充分とれるのは今だけだと思うので、家族の会話を大切にしながら、親子・兄弟の絆を強めていければよいかと思っています。

家の巻

114



話そう!語ろう! わが家の約束



コロナ禍の中で各ご家庭や、各学校で様々な工夫、努力、気遣いをされて日々お過ごしでしょうかと思います。

その中で、我が家のルール（心がけていること）として取り組んでいる事を紹介させていただきます。

①週一回は子どもたちが食事の準備を手伝う。

我が家には三人の子どもがいます。それぞれが食事の準備で得意な事を手伝ってくれています。例えば長男は魚を捌いてくれたり、次男は洗いの物をしてくれたり、長女はご飯を炊いてくれたりします。大事な食事の時間を協力して手伝う事で、家族の中の役割を意識してもらえたら嬉しいです。

②夕飯中に今日一日の出来事を発表する。

夕飯中に家族五人がそれぞれ今日一日の出来事を発表します。何もなかったような一日でも、ちょっとした事に気付いたり、感じた事を伝える事でコミュニケーションを絶やさないようにしたりしています。会話の内容からも子どもたちの成長がわかります。

③金曜日の夜は家族揃って映画鑑賞をする。

金曜日の夜は家族揃って映画を鑑賞しています。おやつも準備して、その日は少し夜更かしもOKとしています。

以上、ルールというには厳しくもないのですが、できるだけ家族としての時間を大事にするように心がけています。

もちろん我が家の子どもたちもゲームやネットも使いますが、時間に関しては本人たちに申告させています。

コロナ禍で息苦しい世相になってしまいましたが、家庭内ではふれあいを大事にして、明るく風通しの良くなるルールにしています。

家の巻

115



東白川村立東白川中学校PTA会長 神戸 将成

我が家のルール

減塩の必要性から、学校給食の塩分の基準量は小学校中学年で2g未満とされており、薄味でおいしく食べられる工夫をしています。市販の塩づけは塩分を加減することができませんが、生でけて作ること減塩することができます。また、焼くときにさけの周囲に分量外の水(少々)をふって蒸し焼きにすると、ふっくらと仕上がりが、少ない塩分でもおいしく食べることができます。

炒り卵は、きれいな黄色に仕上げるために、焦げる心配がない電子レンジを使って作りました。

今回は、旬のなばなを使った、春らしい彩りの小丼です。春休みのお昼ごはんにかがででしょうか。ぜひ親子で作ってみてください。

作り方

- ① フライパンにクッキングシートをしいてさけを並べ、塩と昆布茶を振ってふたをし、焦げないように焼く。片面が焼けたら、さけを裏返してふたをして焼く。
- ② ①の皮と骨を外し、食べやすい大きさにほぐす。
- ③ 耐熱容器に卵を割り、塩を加えて白身を切るようによくかき混ぜる。周りが少し固まってくるまで30秒ほど電子レンジで加熱する。かき混ぜてからさらに30秒ほど加熱する。炒り卵状になるまで、「10秒ずつ加熱」と「混ぜる」を繰り返す。
- ④ なばなは、たっぷりのお湯で茎から入れてゆで、水にさらす。固くしぼってから5mm程度の小口切りにし、濃口醤油であえる。さらにしぼって水気を切る。
- ⑤ 器にごはんを盛り、②、③、④のをせる。

材料

【材料】(4人分)

- ごはん……………茶碗4杯(480g)
- さけ切り身(ムニエル用)
……………2切れ(150g)
- 塩……………少々(0.5g)
- 昆布茶……………少々(0.5g)
- 卵……………2個(100g)
- 塩……………少々(0.5g)
- なばな……………1/4把(50g)
- 濃口醤油……………小さじ1/2(2g)

●栄養価(1人あたり)

エネルギー……………	302kcal
たんぱく質……………	15.0g
脂質……………	5.4g
カルシウム……………	34mg
鉄……………	0.9mg
亜鉛……………	1.4mg
ビタミンA……………	70μgRE
ビタミンB ₁ ……………	0.15mg
ビタミンB ₂ ……………	0.22mg
ビタミンC……………	14mg
食物繊維……………	0.8g
食塩相当量……………	0.5g



Q1 初めてお花見をしたといわれている武将は次のうち誰でしょう?

- ア 織田信長
イ 豊臣秀吉
ウ 徳川家康



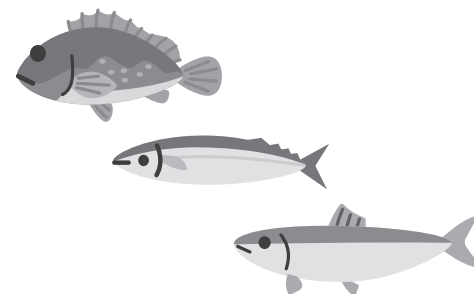
3月号の

親子ではてな



Q2 別名「春告魚」と呼ばれている魚は次のうちどれでしょう?

- ア カサゴ
イ サンマ
ウ ニシン



応募方法

応募者は、はがきで、3月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●3月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

1月号クイズ答え

Q1 イ Q2 ア

1月号のクイズ当選者

井藤有珠那(岐阜市) 内藤 希(揖斐郡)
加藤 優汰(各務原市) 土屋 美賀(関市)
堀 希実(羽島郡) 鈴木 伶実(郡上市)
松原 壮(羽島郡) 玉腰陽直子(郡上市)
千先 寧々(大垣市) 和田 磨音(郡上市)
勝 咲来歩(不破郡) 和田 夢望(郡上市)
名和 氷鏡(安八郡) 池田 愛(飛騨市)
五十川陽紀(揖斐郡)

なぞなぞの答え

- ① シロクマ
(シマの中にロクがあるから。シ[ロク]マ)
- ② 校長先生(好調だから)

本校は、「安心して過ごせる学校」を基盤にしながら、夢を描き続けることの大切さの実感やキャリア教育の推進、地域に貢献することの価値の体感を重点として、主体的に行動する生徒の育成を目指しています。校区は、関市の西部に位置する自然豊かな美しい環境にあります。地域の方々は、PTAの活動に大変協力的で、地域の宝である子どもを地域で育てていこうという意識が高く、子ども達は、安心して地域での生活を送っています。武芸川中学校が大切にしている教育活動の一つである「あいさつ改革」では、相手を大切にする気持ちを姿で示すことにこだわっています。「いつでも・誰にでも・自分から」、「目上の人には立ち止まって・考えて・会釈をして」といった具体的な姿を目指しています。地域の方々とも双方の意思疎通を大切に自然なやり取りができていることが心穏やかな生活につながっています。

このような環境の中で、総合的な学習の時間では、地域の物的資源や人的資源を活用して、一年生では、「身のまわりから生き方を考える」、二年生では、「働くことから生き方を考える」、三年生では、「自分の将来を考える」をテーマとし取り組んでいます。十一月には、地域の人材を生かし、ふるさとの先輩から生き方を学ぶ『武芸川オープンスクール』を実施し

ました。PTAの主催事業として実施することを通して、PTAが地域に生きる子どもの将来を見守る事業として位置づいています。今年度は授業参観と兼ねて実施し、職業観や働くことへの夢や意義を親子で学ぶ機会となりました。『武芸川オープンスクール』は、本校のキャリア教育の大切な柱です。

昨年度は実施できませんでしたが、二十年目となる本年度は、薬剤師、元プロ野球選手、医師、弁護士、映画監督、理学療法士、保育士、ボイストレーナーの方々を講師として八つの講座を開講しました。地域の職業をもつ人から、生き方や仕事に対する思い・やりがいについて学び、今の自分の生き方や進路選択に対する考え方を見つめ直すことができました。それぞれの講座では、職業を選択された動機、職業に就かれるまでの歩み、職業の内容、生きがい、苦労したこと、これからの生き方、今の中学生に伝えたいこと等を体験または実技を交え、熱心に語っていただきました。講座を通して夢や希望を描き、その実現に向けてよりよく生きるための考え方や行動の仕方を身に付けることにつながりました。身近に住んでおられる地域の方から語っていただくことで、目指す姿がより身近に感じられる機会となりました。



▲保育士講座
子どもって面白い



▲映画監督講座
夢を創る



◀医師講座
医師になるために



薬剤師講座
薬を通じて患者さんに
寄り添う



元プロ野球選手講座
夢をもつことの大切さ ▶



◀弁護士講座
弁護士になるために



▲ボイストレーナー講座
きみかバイトレスクール



▲理学療法士講座
一度ぎりの人生を大切に

ふるさとの先輩から生き方を学ぶ
～武芸川オープンスクール～



北方町立北方西小学校は、全校児童百七十三名の比較的小規模な学校です。校区には町立図書館、北方町ホリモク生涯学習センター（ホール棟と学習棟）などの公共施設や一級河川「糸貫川」、歴史を感じる商店街があり、子どもたちの豊かな学びを育んでいます。その中で学校が核となって家庭、地域ぐるみで「たくましく生きる子（考えいっぱい）やさしさいっぱい カいっばい）」の育成に取り組んでいます。

伝統の「にじいろ学級活動」

「にじいろ学級活動（全校縦割り活動）」は、本校の四つの伝統の一つで、子どもたちが主体となる活動です。六年生が全校のリーダーとなり「みんなが笑顔になれる」をキーワードに「みんなの名前が覚えられるような遊びにしよう」「遊びの時間をたくさんとれるように工夫しよう」と真剣に考えて活動しています。

今年度は、子どもたちが創造的に行事をつくり出すことを願い、九月実施の運動会を「にじいろ学級活動を活かした行事『にじいろスポーツランド』」に変えました。残念ながら感染症対策の為に運動会は中止になりましたが、代わりに十二月に時間や内容を短縮して行いました。



「にじいろ学級遊び」
オニは名前を呼んでタッチします



「にじいろスポーツランド（運動会）」の
結団式を行っている様子

「和太鼓」で伝統文化の体験活動

北方町には町指定文化財「時の太鼓と打法」があり、六月十日の「時の記念日」には、時の太鼓のイベントに参加をしています。本校では、郷土愛を育むことや伝統文化の体験活動として「和太鼓」を行っています。県内で活動する指導者の先生を招いて、一年生から六年生が和太鼓の打ち方や演奏を楽しんでいます。



4年生
曲に合わせて
色々な叩き方を
練習している様子



1年生
太鼓の打ち方を
教えてもらっている様子



朝の読み聞かせ
読み聞かせサークル
「ぼらぼら」さんが
来るのを楽しみにしています



サツマイモの収穫
長寿会のみなさんと一緒に
サツマイモ掘りを楽しむ1・2年生



糸貫川清掃
毎年4年生は婦人会のみなさんと一緒に
活動しています

地域との繋がりを深める体験活動

北方西小学校では、学校支援ボランティアのみなさんや地域の社会教育団体のみなさんと連携した体験活動を行っています。今回は三つ紹介します。

一つ目は、地域の読み聞かせサークル「ぼらぼら」のみなさんによる「読み聞かせ」です。二つ目は、サツマイモの栽培活動です。毎年一・二年生は、地域の高齢者（長寿会）のみなさんと苗植えや収穫を行っています。三つ目は、北方町婦人会のみなさんと一緒に行っている糸貫川の河川清掃です。

どの活動も、地域の方と直接触れ合うよい機会となっており、子どもたちにとって貴重な体験となっています。

バドミントン部



バドミントン部では、仲良く支え合うだけでなく、お互いを指摘し合い、高め合える関係づくりを目指しています。県大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。

男子ソフトテニス部



男子ソフトテニス部は、「昨日の自分よりも1%でも多く成長すること」を大切に練習に励んでいます。一勝でも多く勝てるよう今後も部員一丸となって努力していきます。

女子ソフトテニス部



女子ソフトテニス部では、「人間形成」を目的に活動をしています。現在の目標は団体戦で県大会出場です。楽しく明るく全力で取り組んでいます！

美濃加茂市立東中学校

夢中! 熱中!

我らが部活

国際交流部



国際交流部では、国籍や学年の枠にとらわれず、みんなで仲良く勉強したり活動したりしています。コロナが落ち着いたら、以前のようにアルミ缶回収などのボランティア活動をやりたいです。

男子バスケットボール部



男子バスケットボール部では、「チームプレイ」「個人スキルの精度向上」を大切に日々練習に取り組んでいます。県大会勝利を目標に、試合内容だけでなく、会場での姿も大切に活動しています。

女子バスケットボール部



女子バスケットボール部は中体連地区大会ベスト4を目標にして頑張っています。バスケットボールを楽しみ、全員でなりたい自分になるために日々の練習に取り組んでいます。

美術部



美術部では、「表現力と人間性の向上」を大切に、よりよい表現方法を考えて試行錯誤しながら取り組み、一人ひとりが自分らしさを磨いて成長していきます。

吹奏楽部



吹奏楽部では、「心に響く音楽」～美心美音(美しい心と美しい音色)～を目標として取り組んでいます。コンクールで賞を取るだけでなく、演奏を聴く方々に感動を届けることも大切にしています。

卓球部



卓球部では「個」の力を徹底的に伸ばすことを目標として、自分の苦手な技術に前向きに取り組む練習を大切にしています。地区に強豪校が多いので、少しでも勝てるように努力していきます。

家庭研究部



家庭研究部では、布を使った作品づくりに取り組んでいます。今までに作ったのは、ブックカバー、イニシャルのマスコット、きんちゃく袋などです。制作技術を磨きながら、愛着をもって使う心も大切にしています。

パソコン部



パソコン部では、一人ひとりがプログラミングやパワーポイントを用いたオリジナル作品製作やタイピング練習に取り組んでいます。学年の枠を超え、仲間同士で教え合うことを大切に活動しています。

駅伝競走部



駅伝競走部では、仲間とともに切磋琢磨していく人間関係づくりを大切にしながら、粘り強く努力を継続する力を育成することをねらいとして、秋から冬の期間限定で活動しています。

陸上競技部



陸上競技部は試合や記録会で、個人での出場が多いからこそ、仲間との繋がりを大切に練習しています。仲間から学び、教え合って、「東魂」をみんなで築きたいです。

野球部



野球部では、しっかりと「挨拶」とはっきりとした「返事」を大切に活動しています。県大会優勝を目指して、全員で取り組んでいます。

剣道部



剣道部は、「知行合一」を合言葉に、良くなりたいという願いを行動に移すことを大切に活動しています。自分たちの良さを大切にして一人ひとりの力が高まるよう努力します。

サッカー部



サッカー部は日常生活向上部です。日々の生活を大切に過ごしています。試合では、常に勝ちにこだわり、今季の目標は無失点勝利です。

ソフトボール部



ソフトボール部では、「感謝の気持ち」と「自ら動く」ことを大切に日々練習ができることに感謝の気持ちを持ち、日常からあいさつなど自ら率先してできるよう取り組んでいます。

柔道部



柔道部は、体力や精神力を高められるよう、練習に取り組んでいます。一人ひとりが県大会出場を目指してがんばります。

女子バレーボール部



私たちは、プレー中の次につながる声を出せるようにするために、日頃から「挨拶」「練習中の声の掛け合い」を心がけています。試合では、最後まで粘り強く勝利を目指します。

男子バレーボール部



「バレーボールを好きであること」をモットーに、仲間と好プレイを認め合い、失敗した時は励まし合いながら元気な声で練習に励んでいます。

私たちのPTA

加子母小学校舎と唐塩山



加子母中学校舎と唐塩山



親子で体育大会会場準備



環境整備作業



花植えの苗の受け渡し式



資源回収



花植えの苗の植え替え作業



花植えの苗の植え付け作業



通学路のペゴニア



はじめに

中津川市立加子母小学校ならびに加子母中学校は、中津川市の最北部に位置し、阿寺山系の中にある自然豊かな学校です。東濃檜の郷である加子母は、古くから林業が盛んです。校区には二十一年一度、伊勢神宮の式年遷宮で使われる木材が切り出される神宮備林を備えています。また岐阜県指定重要有形民俗文化財の「かしも明治座」があります。毎年九月には、定期的に加子母歌舞伎公演が行われ（コロナ禍のため本年度は中止）地域をあげて盛り上がりがあります。

「村づくりは人づくり 人づくりは村づくり」という合い言葉が、かつて加子母村だったころから受け継がれてきています。地域ぐるみで「加子母の子」を育てようという環境の中に、加子母小学校、加子母中学校があります。

PTA紹介

加子母小中学校PTAは、ずっと前から小・中が一緒になって活動を創り上げてきました。小学校、中学校はもちろんです。加子母保育園、加子母教育協議会などとも密に連携を取って、PTAの活動Ⅱ地域の活動」という活動になっています。本年度は「目指せ4つのK（健康、感心、感謝、貢献）地域とともに育て心豊かな加子母の子」をスローガンとして、地域ぐるみで「加子母の子」の教育活動に取り組んでいます。

ここ二年間の加子母小中学校PTAの活動は、多くの学校のPTA活動と同じように、コロナ禍の影響を強く受けましたが、PTA役員、PTA会員のみなさん、そして地域のみなさんが「このまま学校を放っておけないで……」何かできることはないかね……と、様々な場面で支えていただきながら活動を続けています。

PTA活動について

今年の夏から秋にかけては、コロナウィルスの大規模な広がりのため、対面での会議ができなくなったことがありました。そんな中で、役員のみなさんの「思い切つて、リモートでやってみよう！」の声に背中を押され、リモート本部役員会で活動計画を詰め、今できる最善だと考えられる取り組みを続けています。

【PTA環境整備作業】

学校に集まって活動することが難しい時が長く続きましたが、PTAのみなさん

の工夫と熱意によって、二年ぶりに小学校・中学校の教育環境の整備をしました。中学校では、親子で体育大会開催のためのグラウンド整備をしました。

【PTA資源回収】

今年の資源回収も、何度も延期になりました。地域の方が回収物を保管することができず、回収の量が減るかもしれないと思つての活動でしたが、思った以上にたくさん集めることができました。地域のみなさんも学校のために、協力をしてくれているのだと感じる機会となりました。

【地域のみなさんを講師とした教育活動や授業参観日各種活動の配信公開】

地域のみなさんに学校に来ていただいて児童・生徒の様子を見ていただくことが困難な日々が続いています。そのため、参観日や特別な活動のある日には、積極的に活動の様子を配信で公開するようにしています。新しい生活様式の中の参観授業の在り方について、学校とPTA、地域が一緒になって考え、取り組んでいます。

この他にも加子母の各地区では、PTA支部長さんを中心に、工夫して子ども会の活動に取り組んでいます。地域での花植え活動、夏休みの朝のラジオ体操、各地の神社でのお祭り、お楽しみ会、左義長など、地域の伝統と文化を大切に思い、伝える取り組みを続けています。

おわりに

コロナ禍でのPTA活動は、様々な気遣いが必要で、とても大変です。今の状態だからできなくても仕方ないという風潮もありましたが、このままでは、これまで多くのみなさんによって受け継がれてきた文化が途絶えてしまうのではないかと不安や心配が常にありました。しかし、役員や地域のみなさんの「今の状態の中でも何かできることはあるはずだ」「取り組み方を工夫して、何とか実施しよう」という想いによって活動を継続することができました。おそらく加子母のみなさんの精神には、常に「村づくりは人づくり 人づくりは村づくり」という理念が脈々と受け継がれているからこそ続けてこられたのだと思います。加子母で育ち、加子母で学び、加子母を巣立っていく子どもたちに、人生のルーツを、ふるさと「加子母」に作ってあげられるよう、これからも様々なことに取り組んでいきたいと考えています。



がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

岐阜市立鶉小学校



1年生「遊び体験」

地域の「のびのびうずらっこ」のみなさんから、こまや新聞を使ったかぶとづくり等、昔からの遊びを教えてくださいました。



2年生「町探検」

すみれ公園や鶉公園へ出かけました。公園での遊びを通して、地域のすてきなところをたくさん見つけることができました。



3年生「鶉田神社見学」

神社での参拝や手水の仕方、鶉田神社の歴史等を氏子役員や青少年育成市民会議の方から教えてくださいました。



4年生「命の授業」

助産師の方から、命の尊さや性について知っておくべき大切なことを学ぶことができました。



5年生「防災教室」

防災士の方を招き、DIG（災害図上訓練）を通して、災害への備え、非常時の心構えや大切にすべきことを学ぶことができました。



6年生「職業講話」

13名の方を講師に招き、それぞれの職業におけるやりがいや苦労、プロとして大切にされていることを教えてくださいました。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和3年度 春風号
第73巻5号 通巻470号

発行／令和4年3月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257 FAX／058(262)3259
Eメール／info@gifu-pta.jp ホームページ／<https://gifu-pta.jp>
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社